

[三重暮らしを応援します]

三重暮らしの ススメ

Mie gurashi no
susume



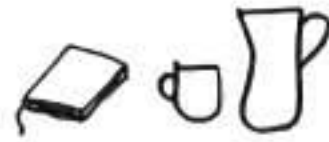
海がある
山がある
人がいる



ええとこやんか三重

三重暮らしの ススメ

Mie gurashi no
susume



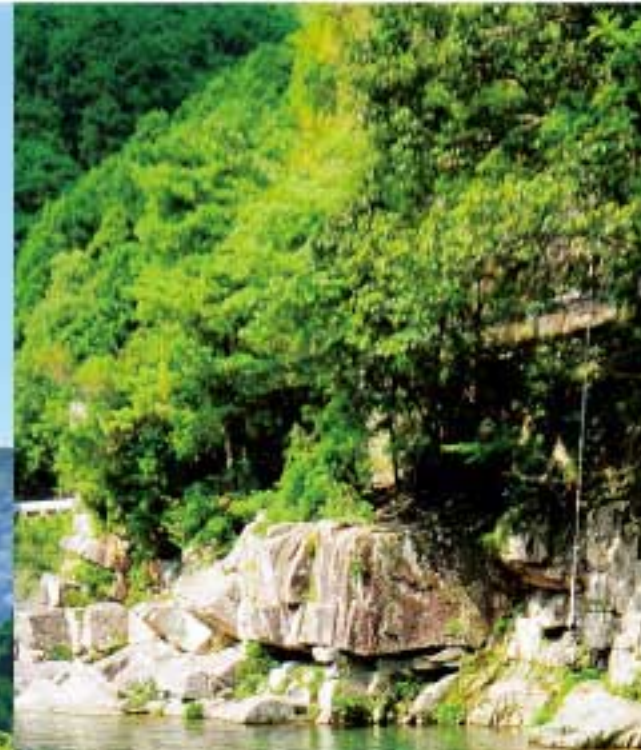
豊かな自然と地方都市の機能性を備えた三重県

日本のほぼ中央の太平洋側に位置する三重県は、紀伊半島東部に沿って南北約170km、東西約80kmと南北に細長い県です。県土のほぼ中央を流れる檜田川に沿った中央構造線を境に、自然環境も北部と南部で異なります。北部では東に内湾の伊勢湾が広がり、北西には雪がよく降る養老、鈴鹿、笠置、布引などの山脈・山地が連なっています。一方、南部の東は志摩半島から熊野灘に至るリアス式海岸が続き、西には県内最高峰1,695mの日出ヶ岳(大台ヶ原山)を中心に「近畿の屋根」と称される紀伊山地が連なるなど、多彩な風土のもと、美しく豊かな海、山、川の自然に彩られています。

その一方で、中京や関西圏ともほど近く、人口10万人を超える都市機能を備えた市も多く、市街地と郊外の自然をほどよく併せ持つなど、ライフスタイルに応じて多様な暮らしを実現することができます。

懐が深い 三重の自然

何百年もの間、人の手が加えられていない原生林は、国内ではほとんど残されていません。しかし、宮川源流域の大杉谷と大台ヶ原には、標高の低い場所から1,500mを超える高地まで原生林が連続しており、動植物や自然美の宝庫となっています。



多雨をもたらす 清流

尾鷲から大台ヶ原山系一帯は国内有数の多雨地帯。尾鷲の年降水量の平均値は約4,000mmと、屋久島に次ぐ第2位。また、大台ヶ原山系も「月に35日雨が降る」といわれ、日本一の清流に度々選ばれている宮川や、河口付近の水中で「ゆらゆら帯」と呼ばれる海水と淡水の境界がはっきりと見える銚子川など、透明度の高い清流が同域から流れています。

世界に誇る リアス式海岸

大小600の島々が浮かぶ志摩半島から熊野灘にかけては、美しい海岸線が複雑に入り組む日本を代表するリアス式海岸が続いています。サミットの開催地に選ばれた美しい風光とともに、古来より「御食つ国」「うまし国」と呼ばれるほど新鮮な海の幸に恵まれています。

代表的な 農林水産物

ホンシメジ、モロヘイヤ、サツキ・ツツジ、ナバナ、ミカン、伊勢茶、和牛、イセエビ、カツオ、アワビ、イカナゴ(コウナゴ)、カキ、アオサ、ヒジキ



データで見る三重県

広さ

平成26年10月1日現在
 面積 5,774.39km² (全国25位)
 人口 181万1,990人(全国22位)
 人口密度 315.27人/km²(全国20位)
 自然公園面積 208,394ha(県土の約36%)(全国3位)

三重県には、伊勢志摩国立公園と吉野熊野国立公園をはじめ、2つの国立公園、5つの県立自然公園があり、その総面積は県土の約36%(全国3位)を占めています。

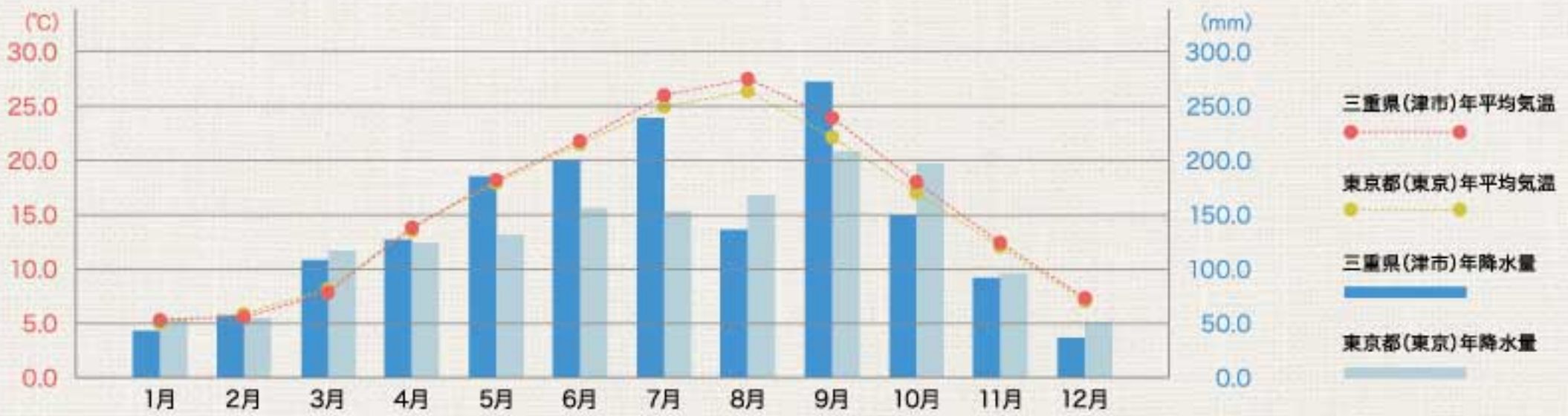
気候

2013年
 年間平均気温 16.5℃
 年間日照時間 2,366時間(全国5位)
 年間快晴日数 44日(全国12位)

地域によっては季節や朝晩の気温差や降水量に違いがあるものの、全体的には温暖な気候です。
 ※データは「統計でみる都道府県のすがた2015(総務省統計局)」



月別平均気温・降水量 (統計期間: 1981~2010)



三重県(津市)と東京都(東京)の月別平均気温 (統計期間: 1981~2010)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
三重県(津市)	5.3	5.6	8.5	14	18.6	22.4	26.3	27.5	24	18.3	12.7	7.8
東京都(東京)	5.2	5.7	8.7	13.9	18.2	21.4	25	26.4	22.8	17.5	12.1	7.6

三重県(津市)年平均気温 **15.9℃**
 東京都(東京)年平均気温 **15.4℃**

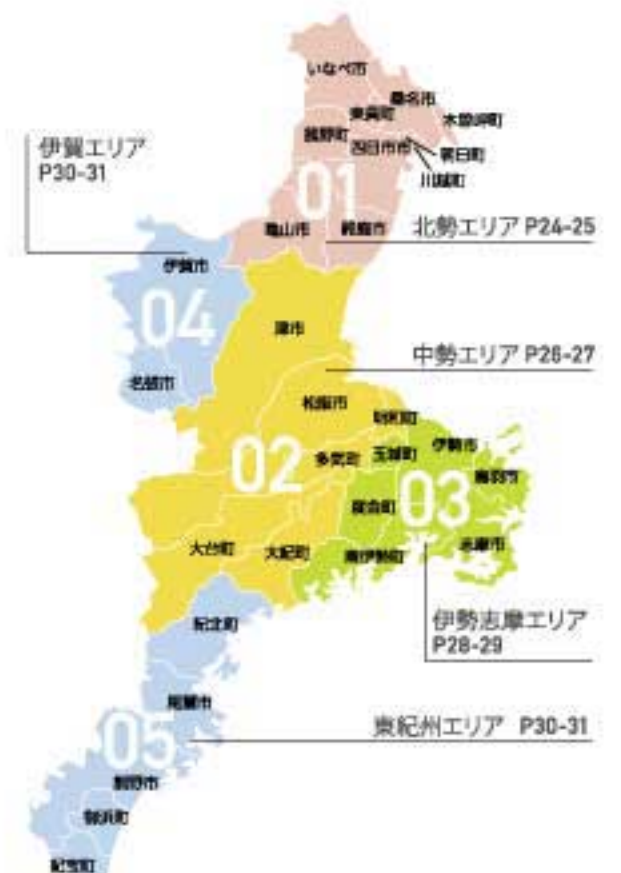
三重県(津市)と東京都(東京)の月別平均降水量 (統計期間: 1981~2010)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
三重県(津市)	43.9	59	109.9	127.9	177.1	200.4	180.3	137	273.1	150.7	83.5	38.5
東京都(東京)	52.3	56.1	117.5	124.5	137.8	167.7	153.5	168.2	209.9	197.8	92.5	51

三重県(津市)年降水量 **1581.4mm**
 東京都(東京)年降水量 **1528.8mm**

CONTENTS

移住者インタビュー その1	04-05	林業	18
移住者インタビュー その2	06-07	その他の仕事	19
移住者インタビュー その3	08-09	移住までのステップ	20-21
移住者インタビュー その4	10-11	相談窓口	22-23
三重で暮らす		エリア別ガイド	
くらし	12	北勢	24-25
すまい探し	13	中勢	26-27
出逢い 子育て	14	伊勢志摩	28-29
医療	15	伊賀・東紀州	30-31
働く		下見のススメ	32-33
農業	16	Q&A	34-35
漁業	17		



三重暮らし

ストーリー

それぞれの物語

その
1

三重でできることをやる！
紀北町を自ら輝く舞台にしたい。



しゅう
岩本 修 さん

プロフィール

1986年愛知県大府市生まれ。高校卒業まで名古屋で暮らし、大阪の大学へ進学。その後、アメリカ・ボストンに語学留学。帰国後、両親が移住していた紀北町に移住し、農業を始める。現在、トマトなどの生産・加工・販売を行う株式会社デアルケ代表取締役。2015年3月に結婚。



直感を信じて農業で起業

三重県南部、東紀州の玄関口にあたる紀北町。日本有数の原生林が残る大台山系に抱かれ、黒潮洗う熊野灘に面した自然豊かな町だ。

岩本さんがこの町に移住してきたのは2008年のことだ。だが、その理由は、「この町の美しい自然、静かな環境に魅了されたからではないんです」という。

「もともと、この町に移住を決めたのは両親。特に父親が55歳で引退して隠居暮らしの場所を探していてここに行き着いたということなんです」

機械製造関係の会社を経営していた岩本さんの父親は、和歌山県有田市の出身。海が好きなこともあったが、たまたま訪れた紀北町を気に入ったということらしい。

「この町を案内してくれたタクシーの運転手さんがとても親切で、土地の人たちの人柄もよかったですと聞きました」

アメリカ留学を終えて岩本さんが紀北町にやってきた頃、それは将来の進路を決める時期でもあった。折しも、リーマンショックに揺れる時勢。そこで、自らを「直感で動くタイプ」と評する岩本さんが選んだ進路は、紀北町で農業をすることだった。

農業は伸びしろがあるビジネス

岩本さんは、農業を始めた動機を、「今、科学技術が進歩して、医療や工業の技術はある程度完成に近づいているように思えるんです。農業も進歩しているとはいえ、他の産業に比べるとまだ伸びしろというか可能性があると考えました。それに、農業をやれば周りが褒めてくれますよね」と、語る。さらに、当時はさまざまな企業の農業ビジネスへの参入が相次いでいたことや広い土地があったことも大きな要因だったと振り返る。

株式会社デアルケは、母親が経営していた経理代行業の会社。岩本さんは、休眠状態だったにこの会社に入社。定款を変更し、農業ができるようにした。さらに、父親が所有していた土地にハウスを建設し、農業をス





昨年からはジュースやジャムなどの加工品も生産。「200%トマトジュース」と名づけた1本(500ml) 2880円のジュースは、自ら「日本一」と自負するほどの自信作。週刊誌のエッセイで紹介されるなど、各方面で評判を呼んでいる。

スタートさせた。当初は、小松菜やほうれん草の水耕栽培を行ったが、手間がかかる割に生産者による差別化が難しいことから、生産者の個性が活かせるトマト栽培にシフトした。だが…、「農業ってそれほど、甘くはなかった」。最初の収穫では売上はわずか5千円。農業の厳しい現実を感じながらも「喜びもあった」と、岩本さんはいう。

試行錯誤を繰り返して ノウハウを習得

株式会社デアルケでは、現在6棟(13a)のハウスでトマトを中心に栽培。収穫量は年間30~35tに上るといふ。栽培方法は、岩石を熱処理したロックウールを使った水耕栽培で、一部はココナツのヤシ殻を使ったココバッグ栽培も行っている。

経験がないどころか、勉強をしたことさえなかったという岩本さんはどうやって農業を覚えたのだろうか。

「パクリですよ」

もちろん、松阪の農業研究所の指導や地元農家のアドバイスももらったというが、各地の農業生産法人や農家を訪問し、それぞれのやり方を見せてもらったことが、一番大きかったと岩本さんはいう。いわば、見よう見まねで自ら納得するまで試行錯誤を繰り返したという。

「どうやったらトマトにもっと水を吸わせることができるか、どうやったらより多くの

実を収穫できるか。そんなことばかり考えています」

例えば、特殊な石に水を通して水の粒子を細かくするなど、工夫をこらしている。さらに、「素人ならではの発想」といいながら、一本の根からさらに新しい根を生やし、水の吸収効率をより高めようとするなど、味のいい実をより多くできるようなさまざまなアイデアも試している。めざしているのは、「アカデミックでスマートな農業」だ。

紀北町は自らが輝けるステージ

紀北町の印象を岩本さんは、「始めは田舎だと感じました。つまらないだろうと思っていました」と、笑う。その一方で「今、農業に就こうという人は少ないし、僕のような若い人間は希少価値があるというか、自分をアピールすることができます。農業をやっているからこそ、地元の人にも受け入れられていると思います」と、話す。

田舎暮らしのコツは、地元の人たちとのコミュニケーションをとることはもちろん、田舎の不便なところやマイナス点など、悪いところを探すのではなく、「いいところを見ること」。そして、「無理に地元の間人間になろうとするのではなく、適度な距離感を保つことも必要だと思います」と、岩本さんは話す。

今、岩本さんはトマトのほか、イチジクやイチゴの栽培にも取り組んでいる。

「飽和状態になりつつあるトマトの次を見据えて、イチゴなどの栽培も試しています。将来的にはそうした水耕栽培のメリットを活かして、ポット栽培のイチゴを持ち出し、手軽にイチゴ狩りなどができる仕組みづくりの事業化。やがては農業のコンサルタント事業などにも参入したい」と、夢を語る。

農業という仕事を通して地元に着し、自分自身をアピールする岩本さん。紀北町はそんな岩本さんを輝かせる大きなステージになっているようだ。



スタッフは両親を含めて5名。若手スタッフの一人、安藤健太さんは大阪から移住した。「カメラが趣味なので、周辺の美しい自然に惹かれました。町の空気感も気に入っていますが、社長とフィーリングが合ったこと」が移住した理由だという。



妻・由香さん
松阪出身。「やっぱり田舎ですが、思ったほど不便は感じません。周りの人も親切でいいところだと気に入っています」

三重暮らし

ストーリー
それぞれの物語

その
2

自然のリズムで暮らす。
自分らしく生きる三重暮らし。



達 基治さん

プロフィール

1982年三重県多気町生まれ。地元の高
校から名古屋の大学に進学。卒業後は、
体育教師として愛知県の中学などで勤
務。6年間の教員生活の後、南知多町に移
住。結婚し子どもの誕生を機に、2012年
に津市美杉地区に移住。築100年の古民
家に一家4人で暮らす。

築150年の古民家を 自分で補修

津市美杉地区。津市の中心から車で小1
時間の山あい広がる山里。都会の若者が
山里で林業に挑戦する映画「WOOD
JOB! (ウッジョブ!) ~神去なあなあ日常
~」のロケ地だ。また、南北朝時代に勢力を
誇った北畠氏の拠点ともなった歴史ロマン
に彩られた地区でもある。その地域の一角、
国道368号から真福院に至る参道1.5km
あまりの山道は「三多気の桜」という山桜の
名所として知られている。

その坂道の途中に昔ながらの佇まいを残
す古民家に達 基治さん・幸来さん夫婦と
5歳と2歳の子どもたち、一家4人が暮らし
ている。

「移住してきたのは2012年。津市の空き
家バンクを利用して数軒の家を紹介して
もらいました。最初の印象は、土間があっ
て日当たりがいいこと。柱や梁も太くて、
すぐに気に入りました。特に土間がある家
というのは妻の希望でしたから」

とはいえ、家自体が傾いていたり、床や壁
などが傷んでいたり、住めるようにする
ためにはかなりの補修が必要だったと基
治さんはいふ。

「地元の大工さんに教えてもらったりし
ながら、できるだけ自分でやりました」

何とか、住めるようになるまでおよそ2
か月半。補修中には近所の家に泊めて
もらったり、夜食の差し入れなど、周辺
の人から温かいサポートがあったとい
う。

自分らしい暮らしを求めて移住

三重県多気町出身の基治さんは、小
さい頃から「おばあちゃん子」だっ
た。「畑仕事や薪割りとか、そんな昔
ながらの暮らしがおばあちゃんの周
りにはありました。いつかそんなふう
に暮らしたいなあと思ったりするよ
うになりました」といふ。

体を動かすことが好きだったことか
ら中京大学に進学。卒業後は愛知県で
体育の教師となった。小学校の講師を
皮切りに、その後3年間愛知県内の中
学校で体育教諭として勤務。サッカー
部の顧問なども積極的に引き受けた
という。ところが、長時間に及ぶ過酷
な勤務に加え、休日も部活動の指導に
追われるなど、余裕のない生活を余儀
なくされるようになった。そんな日々
の中で「自然の中で自分らしく暮ら
したい」という思いが膨らみ、職場
に通える範囲で古民家を探し、昔な
がらの暮らしを实践しようとした。



しかし、「もう精神的にも肉体的にも一杯いっぱい」。教員生活と自分らしい暮らしの両立を諦め、教職を辞して南知多町に移住。畑を借りて野菜をつくり、力仕事などのアルバイトしながら田舎暮らしを始めた。

子どもたちがのびのび育つ場所

南知多町で暮らし始めて1年後、基治さんは名古屋で看護師として勤務していた幸来さんと結婚した。小さい頃には、菰野町にあった「小屋」に家族でよく出かけ、ガスもなく料理やお風呂も薪を使う生活が大好きだったという幸来さんは、「自然の中で自分らしく暮らしたい」という基治さんに共感した。やがて長女の三奈加ちゃんが誕生。そして、2人目の妊娠を機に夫婦ともに実家のある三重県への再移住を決意した。

「美杉の印象は、特に子どもたちがのびのびとしていますね。この地域に小さい子どもが居ないということもありますが、周辺の人たちがみんな自分の孫みたいに気にかけてくれますね」と幸来さんが話せば、基治さんも、「畑で育つ野菜を覚えたり、真っ赤なトマトを畑でかじったり、虫を捕まえたり…。ほんとうに子どもたちにとってはいい環境だと思っています」と、口をそろえる。

移住当初、遠巻きにしていた地元の人た



「子どもたちがのびのび育つ環境がある」。家の周りや畑も子どもたちの遊び場だ。

自分たちで育てた米から虫を取り除く。一家総出の作業が子どもたちの記憶に刻まれていく。



ちも、子どもたちの姿を見て、徐々に受け入れてくれるようになったという。

「この地域の人たちはみんな個性的。すぐ笑ったり、すぐ怒ったりする素の姿を私たちにも見せてくれる。そんなところが気に入っています」と幸来さんは話す。

自然の摂理に合った暮らし

美杉で暮らしてほぼ3年。「農業半分、その他アルバイトが半分」という基治さん。農業は家の近くに借りた畑で、トマトやごぼうなどを栽培。また、白山町の有機農家をはじめ、電気屋さんや土木工事、解体など、さまざまな仕事を頼まれるようになったという。また、消防団や村(地域)の役も引き受けている。

「移住してきた当初は、周囲の目もどこか冷たいというか、『大丈夫だろうか』という感じでした。それが、どんな仕事をしているかということが見えてくるに従って受け入れてもらえました」

それは、「田舎で暮らす力がついてきた」ということだと基治さんは考えている。

「いなかで暮らす力」とは、地域の人とつながることで、習慣や風習、暮らしの知識や技術を習得すること。例えば、薪で火を熾すやり方や畑のやり方、近所とのつきあい方のように、地域に適應する力だという。そして、その力が、基治さんのめざす自然の摂理に合った生き方に通じるという。

「自然のリズムというか摂理に合わせて暮らしていきたいと考えています。それは、単に『スローライフ』というものではなく、地域に根づいて『暮らす力』をつけていくことでもあると思います。地域がもともと持っていた文化や暮らしを受け継ぎたいし、地域に受け入れられることで、自然と人が集まってくるようになると思っています」と、基治さんは話す。

「これからもずっとここで暮らしたい」という幸来さん。庭先を走り回る子どもたちに目をやりながら、二人は美杉での暮らしを満喫している。



美杉の地域にしっかりと根づいている遠さん一家。

土間のカマドで食事づくり。お風呂やカマドの薪割り
りは基治さんの仕事だ。

三重暮らし

ストーリー

それぞれの物語

その
3

森林の恵み、木の素晴らしさを
発信する三重暮らし。



船木 直人さん

プロフィール

1985年鳥取県松江市生まれ。鳥根の高等専門学校卒業後、大阪で建築専門学校に進学。建築関係の仕事を経て、伊賀市に移住。専門学校在学中から伊賀市の製材所の再活用をめざす『穂積製材所プロジェクト』に参加。現在、鳥ヶ原木材工業株式会社製材所主任として働く傍らプロジェクトを推進中。



製材所再活用プロジェクト

伊賀市鳥ヶ原地域。豊かな森林に囲まれたこの地域も、近年は木材需要の低迷や後継者不足などから林業が衰退し、森林の荒廃も進んでいた。大正10(1921)年に創業した鳥ヶ原木材工業有限会社もこうした時代の波に押され、穂積社長は廃業し、敷地跡を公園にして地域の人たちに活用して欲しいと考えていたという。

ところが、穂積社長夫妻がコミュニティデザインといわれる仕事を展開する「studio-L」の代表、山崎亮氏と出会ったことでそんな思いが一変する。たまたま社長の奥さんが参加した講演会の講師をしていた山崎氏と知り合い、夫妻の思いを伝えたという。だが、現地を訪れた山崎氏は、同社の製材所としての資源や機能を活かしつつ、敷地を都市農村交流の場として活用するとともに、家具づくり体験やスギやヒノキの人工林での環境学習などを行うことで、地域活性化を図るとともに管理されない森林の問題解決にも役立て

ようというプロジェクトを提案。2007年、『穂積製材所プロジェクト』が始まった。

プロジェクト参加を通じた出会い

このプロジェクトには、若手建築家や学生ボランティアなど多くの人々が参加し、地元の大工さんと協働して来訪者と地元の人たちが交流できる「広場」やイベント参加者が休憩できる「木製テント」などの製作など、地元と交流しながらさまざまな取り組みを行った。2013年には、家具づくりの拠点となる「ものづくり工房」も完成した。また、こうした施設を活用し、家具づくり体験や森林体験などのイベントも実施している。

2年前に鳥ヶ原に移住した船木さんは、大阪の建築専門学校在学中にこのプロジェクトに出会い、その立ち上げから参加。学生ボランティアの中心となるコアメンバーとして、週末はもちろん、夏や冬の長期休暇に伊賀に通い、時には泊まり込んでプロジェクトを進めたという。



製材所代表の穂積社長と、地元で「NPO法人伊賀・鳥ヶ原おかみさんの会」を立ち上げそこで活躍する奥さん。「この二人がいるから地元の人にも受け入れられています」と、松木さんは話す。松木さんのよき理解者でもある。

「そこには、建築を勉強している学生や若手建築家だけでなく、芸大の学生など、さまざまな人が集まってとても刺激的。ハマっちゃいましたね」

ものづくりの楽しさとさまざまな人との出会いがあるプロジェクトにのめり込んだと松木さんは振り返る。

プロジェクトの推進役として伊賀に移住

松木さんは、鳥根県松江市生まれ。地元の松江高等専門学校で電気を専攻。卒業後、「もっと自分の手を動かして『ものづくり』をしたい」と、大阪の建築専門学校で建築を学んだ。大阪のまちづくりのコンサルタント会社に就職した後、兵庫県で建築施工の仕事に携わるが、その間もずっとプロジェクトに参加していたという。

転機が訪れたのは2013年のこと。開始から5年を経て、プロジェクトの進行はやや停滞気味になったという。そんな折、穂積社長が入院したのだが、その時「こっちで一緒にやらないか」と誘われたという。

「その時は、仕事もしていましたしちょっと悩みました。でも、プロジェクトを何とかしたいという気持ちが強く移住を決断しました」。製材所の現場仕事とともにプロジェクトの進行役として活躍することになった。

「製材所の仕事は社長からいろいろ教えてもらっています。建築材などの需要を取り込むなど、製材所の売上アップを図ること。

そのうえで、プロジェクトもしっかりと進めていきたい」と、松木さんは話す。

プロジェクトに関しては、森林体験学習や木工体験などを始めたところで、「イメージとしてはまだ30%程度の達成率」というが、その先を見据えて松木さんは前を向いている。

地域に根づいて、木の素晴らしさを発信

「プロジェクトのスタート以来、若い人がたくさん来てくれました。その中でも彼は熱心で真面目。こんな人なら地域にも溶けこんで、プロジェクトもうまくやってくれるだろうと思ってね」と、穂積社長は松木さんに期待する。

鳥ヶ原地域への移住について松木さんは、「ここで暮らすことに抵抗はありませんでした。周りの人もやさしい人が多いように感じます」と話す。

「移居前から、地元のお祭などに参加していましたが、交流できたのは地元の大工さんや会社の周辺の人など、限られた人たち。それが、移住してからさまざまな人たちとつながりができました」

例えば、地域の産業部会への参加や地元森林組合とのつながりも生まれ、まちづくり協議会や地元在住の若手でつくるグループでも活動。地元で顔も知られるようになったという。

「それも穂積社長という人がいるからこそ、地域の人好意的に受け入れてくれるのだと思います。実際、田舎の閉鎖的なところなども確かに感じますが、それ以上に地域とのつながりができたように思えます。そのつながりがプロジェクトを進めるうえでも大切だと思っています」

これから森林体験や木工体験などを積極的に行い、木の素晴らしさを伊賀から発信していきたいと松木さんは情熱を燃やしている。



「鳥ヶ原にはどこか懐かしい空気を感じます。大阪などの都市部にも比較的近いので不便はそれほど感じていません」

今後、木工製品の開発や特産品のブランディングなども行っていきたいと松木さんはプロジェクトの将来を見据えている。



「木もつ独特の温もりやデザイン性、質感など、木の素晴らしさにより多くの人に気づいてほしい。そうすることで、もっと木や森への関心を高めたい」



三重暮らし

ストーリー

それぞれの物語

その
4

ゆつたりした時間が流れる
三重暮らし。



氷上 泰基さん

プロフィール

1984年京都府福知山生まれ。京都の大学を卒業後、大阪市の企業にプログラマーとして勤務。6年間のサラリーマン生活を経て、2012年に尾鷲市早田地区に移住。定置網漁業を行う「株式会社早田大敷」に就職し、漁師となる。妻の彩香さんと3歳の長男・稜也くんの3人で暮らす。



地域にしっかり溶け込んでいる氷上さん一家。

都会の暮らしに疲れ、 漁師に転職

尾鷲市の中心部から車で20分ほど。深く入り組む入り江に迫る山に抱かれる早田地区は、古くから豊饒な海に恵まれた漁業の盛んな地域だ。しかし、近年では過疎・少子高齢化が進み、高齢化率は65%を超え、集落には空き家が目立っていたという。

そうした地域を活気づけるために、同地区ではさまざまな活動に取り組んでいるが、漁業者の育成にも力を入れている。こうした取り組みから最近では、県外からの移住者が増え、にわかに活気づいている。地元で古くから定置網漁を行う「株式会社早田大敷」には、20代から30代の若者10人が関西や中京などから移住し、漁師をめざしている。

「とにかく時間や仕事に追われる都会での

暮らしに疲れて…。自然の中で働き、自然の中で暮らしたいと思って、ここに移住してきました」と、氷上さんはいう。

氷上さんは31歳。大阪でプログラマーとして働いていた。大学では法律を学んだもののプログラマーになりたいという夢を叶えた社会人生活。入社後3年目には大阪市内で看護師をしていた彩香さんと結婚し、暮らしは充実するかに思えたが、状況はさらに悪化。「このままでは、肉体的にも精神的にも壊れてしまう」と、妻の彩香さんにも思えるほど深刻な状況だったという。

「そんな状況で転職を考えたとき、『漁師』が気になったんです」

そこで、二人は大阪で開催していた「漁業就業支援フェア」にでかけ、「株式会社早田大敷」に出会った。



一人前の漁師になりたいという泰基さん。

豊かな自然に恵まれたところでの暮らしを求めて早田に移住。

移住は究極の選択!?

実は、二人が早田大敷に出会ったのは全くの偶然ではなかった。実はその当時、彩香さんの弟がすでに早田大敷で漁師になっていた。そして、「漁業就業支援フェア」のブースの説明スタッフとして来ることも知らされていたという。

「もともと、魚を食べるのも、魚釣りも、見ることも好きだったこともあって、『漁師』という職業に興味がありました。フェアで話を聞いてみて、自然の中で働けるということもあってますます興味が強くなりました」

その後、土日の休みを利用して早田で漁業を体験し、移住の思いを強くしたという。

「実際に、漁を体験してみて『何とかやっけていけるかな』程度の自信ができましたね。実際ここで暮らしていけるか、ということよりとにかくやってみたいと思うようになりました」

その一方で、その頃は妊娠中だった彩香さんは移住することに悩んでいた。

「病院や育児のこともありましたが、私自身が田舎で暮らせるかということもありました。…でも、夫のことを考えたら移住するほうがいいと思いました。私には究極の選択でした」と、明かす。

移住してから泰基さんは、笑顔が戻り、イキイキしていると彩香さんは話す。

漁師として再スタート

早田地区に移住して3年。漁師としての自信もついてきたと泰基さんはいう。

「最初はやっぱり苦労しました。今でも一人前とはいえないけど、漁のことが少しわかってきて、仕事が楽しくなってきた」

泰基さんは、当時のことをブログでこんな風に綴っている。

今日は今期初めての漁(初持ち)でした。これまで、漁をするにあたって、一か月以上の間準備をしてきて、ようやくその日を迎えました。

昨日の夜は楽しみ、ソワソワで夜中に二回目が覚めて、なんか、遠足の前日というか、そんな気分でした。

いざ、漁にでてみると、なかなかうまく動けず指示された内容をこなすのがやっとという感じでまだまだ勉強勉強やな～早く仕事を覚えて一人前に動けるようにならないと…

まじめな話はおいといて、やっぱり魚がとれた時の感動は何とも言えんですね。

初回の漁の緊張感と新たな暮らしへの期待を込めた文章が当時の気持ちを物語っている。

「早田に住み始めてから目に見えて明るくなりましたね。笑顔も増えたとし、移住は正解だったと思います」

当初は、田舎暮らしをする自信がなかったという彩香さんだったが、元気な夫を見ながらしみじみと話した。

一番の魅力は地域の人

氷上さん一家は、漁港近くにある古民家で暮らしている。築100年になろうかという古い家で空き家だった家を会社が手配してくれたという。

「すきま風は入り込むし、雨漏りもします。お風呂も外だし、大変ですよ」と、彩香さんは笑う。

移住直後は、「コンビニもないし、病院も学校も近くにない。本当にこんな不便なところで暮らしていけるのか」と悩んでいた彩香さんだったが、早田で暮らすうちにそんな気持ちが変わってきたという。

「確かに、都会で暮らしていた時とは違う

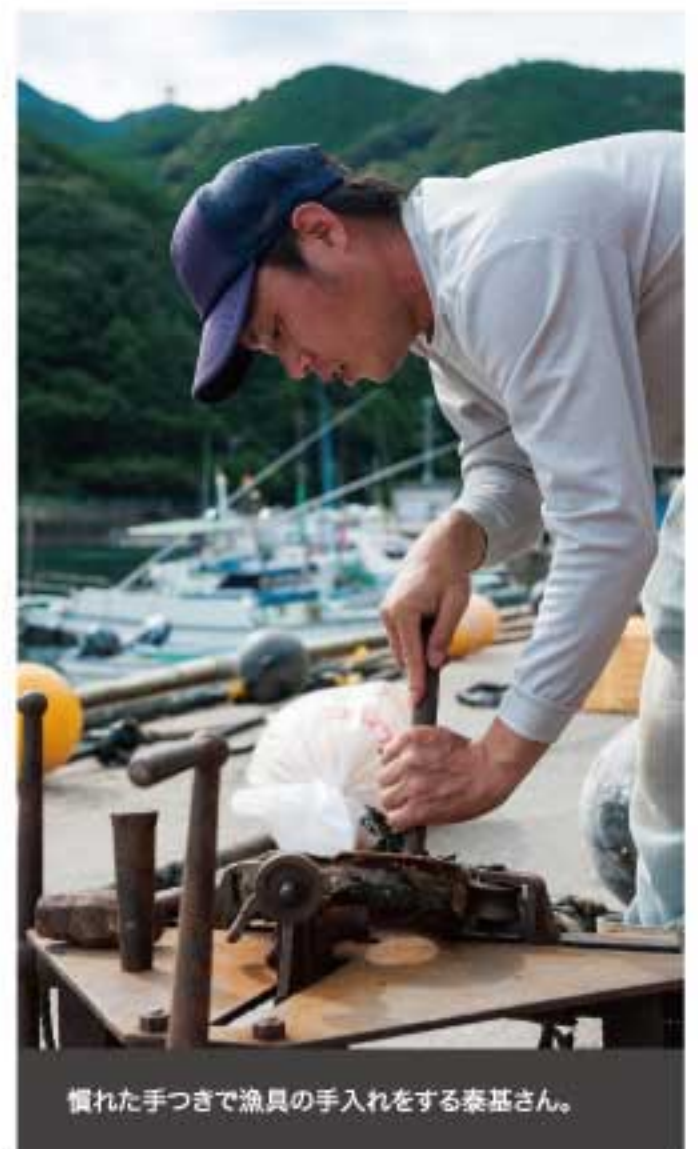
距離感に戸惑うこともありましたが、でも、ここに住んでみて地域の人たちの温かい人柄を感じるようになりました」

取材中、長男の稜也くんを見かけると地域の人誰もが声をかけ寄ってくる。稜也くんがいかにも地域の人たちに愛されているのが伺える。

移居前から「自然に囲まれて暮らしたい」と考えていた泰基さんだが、「海も山も川もこの魅力ですが、何より一番の魅力は地域の人たちです」ときっぱり話す。

「まずは漁師として一人前になって、家族を養うこと」と、いう泰基さんに頷く彩香さん。彩香さんも来年から看護師として地域の医療に貢献していきたいと考えている。「これから私たちも地域に役に立てるようになっていきたいですね。そして、地域に根を張っていきたい」

氷上さん一家にとって早田はかけがえのない故郷になりつつあるようだ。



慣れた手つきで漁具の手入れをする泰基さん。

三重県人の収入と支出

実収入		消費支出	
東京の約	全国平均の約	東京の約	全国平均の約
87%	96%	87%	99%

1世帯当たり1カ月間の実収入(勤労者世帯)と消費支出(二人以上の世帯)

家計項目	三重県	東京都	全国
実収入	50.4万円	57.8万円	52.4万円
消費支出	29.0万円	33.3万円	29.1万円

(統計でみる都道府県のすがた 2015)

物価

全国物価地域差指数

三重県	東京都	全国
96.5	108.5	100

物価は東京より
1割ちょっと
おトク!

(統計でみる都道府県のすがた 2015)

食費・住居費・貯蓄

食費や住居費が消費支出に占める割合が低く、貯蓄現在高は高め…

三重は、暮らしやすい

家計項目	三重県	東京都	全国
食料費割合(対消費支出)	22.9%	24.4%	23.6%
住居費割合(対消費支出)	3.4%	9.0%	6.3%
貯蓄現在高(1世帯あたり)	17,468千円	16,743千円	15,208千円

(統計でみる都道府県のすがた 2015)

きまって支給する 現金給与額(男性)

全国第11位!

第1位 東京都 432.6千円

**第11位 三重県
355.5千円**

全国平均 359.8千円



(統計でみる都道府県のすがた 2015)

持ち家比率

持ち家率は、全国7位、家賃は東京の半分以下

持ち家比率(対居住世帯あり住宅数)

三重県	東京都	全国
73%	44.6%	61.6%

民間賃貸住宅家賃(1カ月3.3㎡あたり)

三重県	東京都	全国
4,087円	8,758円	---

(統計でみる都道府県のすがた 2015)

1人当たり県民所得

1人当り県民所得は、全国12位!

第1位 東京都 442万3千円

第12位 三重県 293万2千円

全国平均 297万2千円

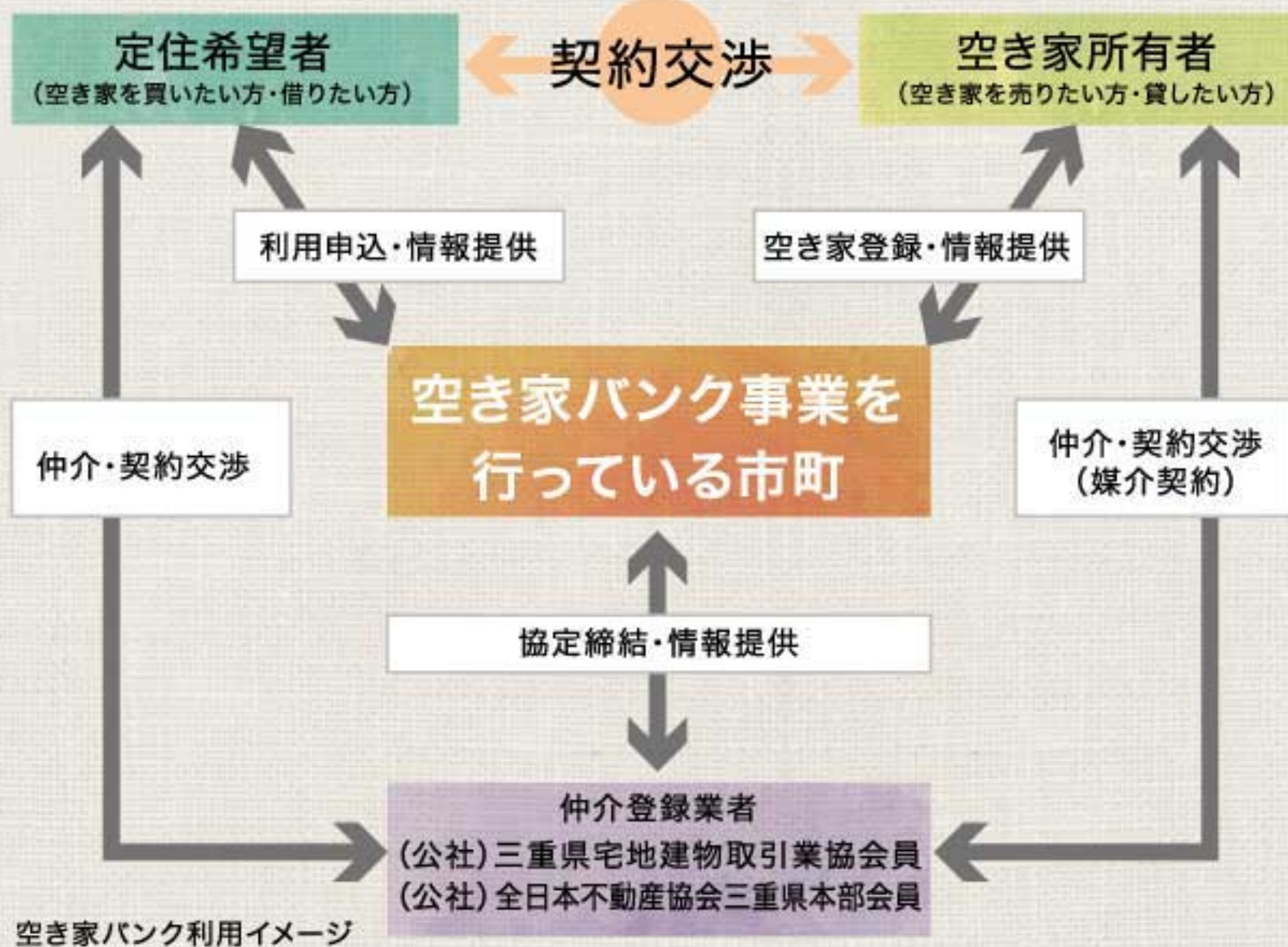


(内閣府「平成24年度県民経済計算」)

すまい
探し

空き家バンク

移住先の住まい探しをサポートします。



※利用イメージ図はあくまで一般的なイメージです。各市町毎に制度を運用していますので、詳細についてはお問い合わせください。

各市町空き家バンク

いなべ市・東員町・四日市市・鈴鹿市・亀山市・名張市・伊賀市・津市(美杉地域)
松阪市(飯南・飯高地域)・多気町・大台町・大紀町・鳥羽市・志摩市・南伊勢町
紀北町・尾鷲市・熊野市・御浜町・紀宝町

県内の不動産情報

空き家バンク以外にも、公益社団法人 三重県宅地建物取引業協会や公益社団法人 全日本不動産協会三重県本部のホームページから物件を検索することができます。

(公社)三重県宅地建物取引業協会
「ハトマークサイト三重」

(公社)全日本不動産協会 三重県本部
「ZeNNET」



<http://www.hatomarksite.com/search/mie/>



<http://mie.zennichi.or.jp/>

空き家リノベーション支援事業

三重県への移住者を対象に、空き家のリノベーションを支援します。
この事業を活用して、空き家バンクの空き家を改修できる場合があります。



工事費の1/3 最大100万円を支援

(上乗せ補助を行っている市町もあります)

条件によって耐震改修工事の補助も活用できます。

[補助対象者]

- 三重県に移住を検討している方、移住後6カ月以内の方、週末などを三重県内で過ごすために空き家を利用する方

[移住促進のための空き家リノベーション支援事業の問い合わせ先]

三重県県土整備部住宅課住まい支援班 059-224-2720

申し込みを希望する場合は、補助を実施している市町にお問い合わせください。

補助を実施している市町

津市・四日市市・伊勢市・松阪市・鈴鹿市・名張市・尾鷲市・亀山市・鳥羽市・いなべ市・志摩市・伊賀市・木曾岬町
東員町・南伊勢町・紀北町・御浜町

出逢い

婚活サポート

少子化対策の一環として、結婚を希望する皆さんの出逢いを応援する「みえ出逢いサポートセンター」を設置しています。センターでは、県内各地で行われる出逢いイベントの情報を「メルマガ会員」(登録無料)に発信し、参加の申込みも受け付けています。

婚活

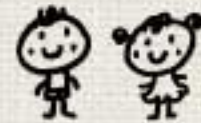


みえ出逢いサポートセンター

子育て

「子育てしやすいみえ」

少子化対策総合ウェブサイト



みえ子どもスマイルネット

三重県では、「子ども・思春期」「若者/結婚」「妊娠・出産」「子育て」のそれぞれのライフステージ毎に「働き方」も含めた切れ目のない支援や取組をまとめた少子化対策総合ウェブサイト「みえ 子どもスマイルネット」を開設しています。各種助成制度のほか、保育所など子どもの居場所に関する情報も掲載しています。

子育て応援クーポン



県内のスーパーマーケットや飲食店などの子育て応援クーポン協賛店でクーポンを提示すると、割引やサービスなどの特典が受けられます。協賛店はシンボルマークが入った左のステッカーが目印です。

医療

三重県救急医療体制図

凡例

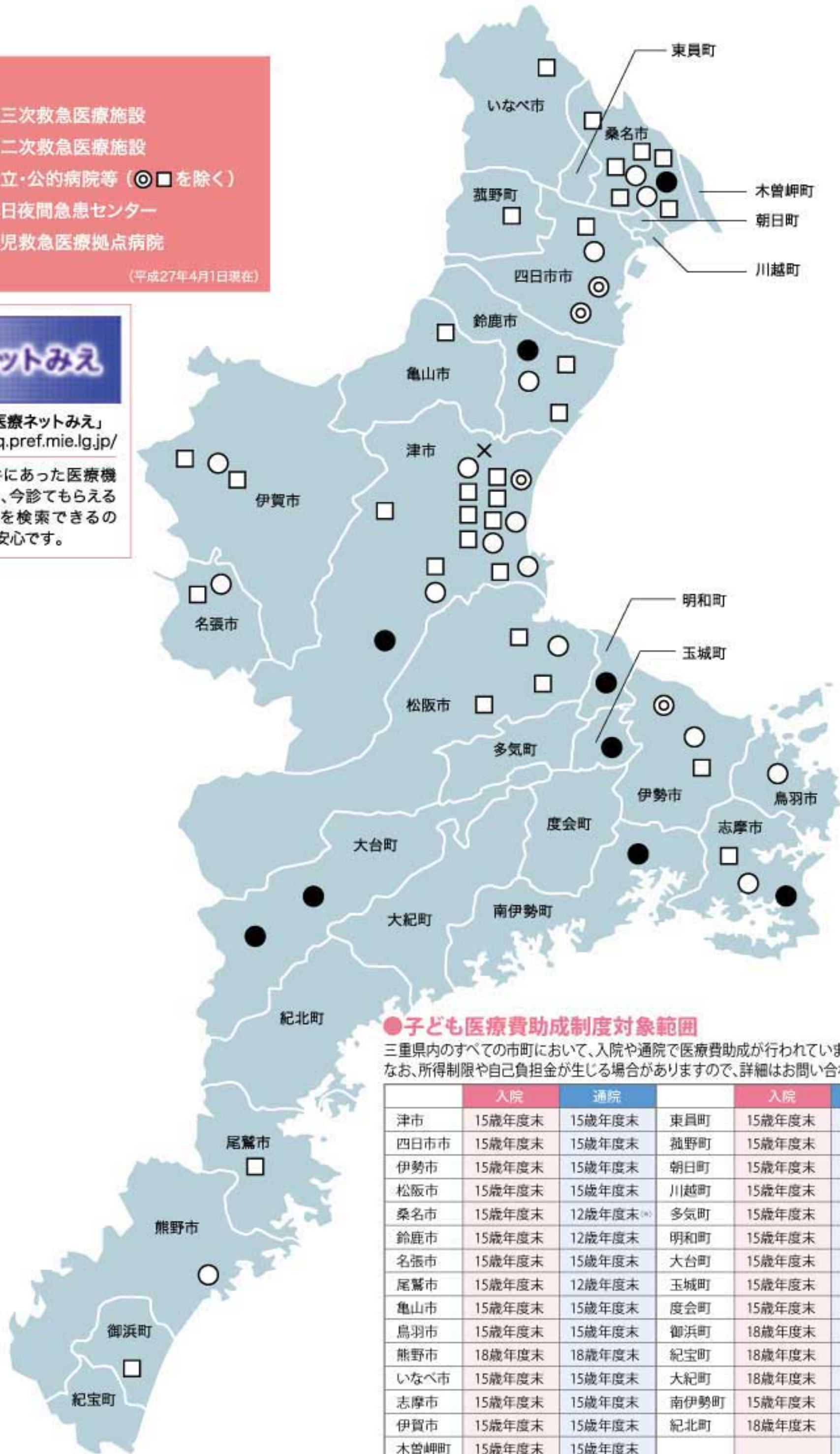
- ◎ …… 第三次救急医療施設
- …… 第二次救急医療施設
- …… 公立・公的病院等 (◎□を除く)
- …… 休日夜間急患センター
- × …… 小児救急医療拠点病院

(平成27年4月1日現在)

医療ネットみえ

ホームページ「医療ネットみえ」
<http://www.qq.pref.mie.lg.jp/>

受診の際、条件にあった医療機関を検索したり、今診てもらえる救急医療機関を検索できるので、緊急時にも安心です。



●子ども医療費助成制度対象範囲

三重県内のすべての市町において、入院や通院で医療費助成が行われています。なお、所得制限や自己負担金が生じる場合がありますので、詳細はお問い合わせください。

	入院	通院		入院	通院
津市	15歳年度末	15歳年度末	東員町	15歳年度末	15歳年度末
四日市市	15歳年度末	15歳年度末	菟野町	15歳年度末	12歳年度末
伊勢市	15歳年度末	15歳年度末	朝日町	15歳年度末	15歳年度末
松阪市	15歳年度末	15歳年度末	川越町	15歳年度末	15歳年度末
桑名市	15歳年度末	12歳年度末 [※]	多気町	15歳年度末	15歳年度末
鈴鹿市	15歳年度末	12歳年度末	明和町	15歳年度末	15歳年度末
名張市	15歳年度末	15歳年度末	大台町	15歳年度末	15歳年度末
尾鷲市	15歳年度末	12歳年度末	玉城町	15歳年度末	15歳年度末
亀山市	15歳年度末	15歳年度末	度会町	15歳年度末	15歳年度末
鳥羽市	15歳年度末	15歳年度末	御浜町	18歳年度末	18歳年度末
熊野市	18歳年度末	18歳年度末	紀宝町	18歳年度末	18歳年度末
いなべ市	15歳年度末	15歳年度末	大紀町	18歳年度末	18歳年度末
志摩市	15歳年度末	15歳年度末	南伊勢町	15歳年度末	15歳年度末
伊賀市	15歳年度末	15歳年度末	紀北町	18歳年度末	15歳年度末
木曾岬町	15歳年度末	15歳年度末			

※多子世帯(18歳未満の子ども3人以上)について、通院は15歳年度末まで助成(三重県医師会HPより、H28年9月1日現在)

最近では、定年退職後に自給的な農業を始められたり、都市生活を切り上げて就農される方など、多彩な方々が新規就農されています。三重県では、Uターンにより新規就農を目指す皆さんの思いを実現するための受け入れ体制づくりも積極的に取り組んでいます。

■ ■ ■ 就農へのステップと支援事業 ■ ■ ■

1
就農相談

就農相談窓口での相談
県農業大学校への入校相談
農林漁業就業・就職フェア
での就農相談
無料職業紹介所での相談



2
体験

農林漁業研修事業(三重県
農林水産支援センター)
・短期研修助成(2~7日間)
・長期研修(2~10カ月)
(住宅手当一部助成等)
学生による就労体験の実施
・県内の農業経営体のもと
で10日以上就労体験



3
就農準備

- 農業大学校での技術・経営の実践的研修
・一年課程、二年課程
- 青年就農給付金(準備型)の給付
・準備型(最長2年間、最大年間150万円)



4
就農

- 新規就農者の重点支援
・就農5年目までの新規就農者対象
- 簿記・経営分析講座の実施
施設・機械等の整備補助
(経営体育成支援事業)
- 青年就農給付金の給付
・経営開始型(最長5年間、年間最大150万円)
- 青年等就農資金の貸付
- 雇用型法人等の人材育成支援(法人等に対する支援)
・研修経費・派遣経費助成(最長2年間)
・独立に向けた研修経費助成(最長4年間)
(農の雇用事業)

- みえの就農サポートリーダー制度
・サポートリーダーのもとでの技術習得に向けた実践的研修
・農地・住居の確保、地域への溶け込み支援

三重でつかんだ夫婦の夢!



【移住者profile】
家族：横田 正和さん(41歳)、未佑さん、長女(3歳)
東京から伊賀市島ヶ原へ移住

将来的に、地方へ移住したいと考えていましたが、伊賀市島ヶ原に移住したのは平成25年に都内で開催された「新農業人フェア」への参加がきっかけ。移住して、住民同士が助け合い、人間らしい暮らしができるようになったと実感。子どもと接する時間が増えたことも満足しています。

農業を始めたのは、東日本大震災の時に食べ物を確保する力が自分には全くないことを痛感。より安全で安心して食べられる物を自分でつくりたいと考えたから。平成25年から研修を行い、本格的に就農できるように準備中。やがては島ヶ

原や周辺地域の魅力発信できる農家民宿を営むことが夢です。

移住は、大変なことも沢山ありますが、それ以上に得られることも沢山あるので、ぜひ、三重県で新しい未来をともにつかんでみませんか!



みえの就農サポートリーダーには、栽培技術ばかりでなく、住居や地域への溶け込み方まで支援してもらいました。



受入側からの一言
みえの就農サポートリーダー：
(農)百姓工房伊賀の大地 松森氏(左)

横田さんは、野菜をメインとした経営を希望していることもあり、私だけではなく、野菜を専業とする複数農家を巻き込んだバックアップ体制でサポートしました。

移住希望者を島ヶ原に送ってくれ(笑)。一緒に楽しくしていこう。

【新規就農の相談窓口】

三重県農林水産部(担い手育成課) TEL059-224-2354
(公財)三重県農林水産支援センター(担い手育成支援課) TEL0598-48-1226
三重県農業会議 TEL059-213-2022

お問い合わせ

三重のお仕事

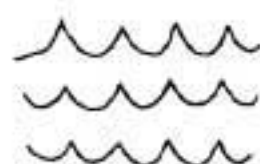
漁業

漁業といっても千差万別。南北に長い三重県では、北部の伊勢湾と南部の熊野灘でとれる魚も漁業もまったく異なります。まずは三重県の漁業や漁業就業、移住についての情報をネットなどで集め、海で働くステップにつなげてください。

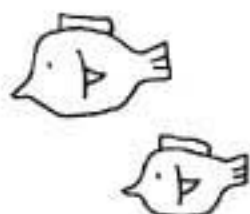
■ ■ ■ 就業へのステップと支援事業 ■ ■ ■

1
就業相談

- 就業相談窓口での相談
- 漁業に関する就業フェアでの就漁相談
 - ・東京、大阪などの主要都市で開催されるほか、三重県津市でも年2回行っています。

2
体験

- 各地で行われている体験プログラムに参加

3
就業準備

- 農林漁業後継者育成基金事業(三重県農林水産支援センター)
 - ・短期研修助成(2~7日間)
 - ・長期研修助成(2~10カ月)
 - ・住宅手当一部助成等
- 長期研修支援制度(水産庁)
 - ・青年就業給付金の給付(水産庁)

4
就業

- 漁船・漁具・水産機器等リース補助(三重県)
 - ・漁業協同組合が新規就業者にリースする漁船等の整備費用の一部を補助
- 新規就業者臨時雇用経費補助(三重県)
 - ・漁業協同組合が新規就業者を臨時雇用する際の経費の一部を補助
- 沿岸漁業改善資金(経営等開始資金)(三重県)
 - ・新たに漁業経営を開始しようとする者に経営開始資金を無利子で貸付

TOPICS

おすすめは雇用型

腕一本で稼ぐ独立自営漁師に憧れる方は少なくありませんが、地域に地盤がないとなかなか難しいものです。漁師として働くには、漁村の一員になること、漁船や漁具をそろえること、ルールを守って魚をとる技術を磨くことなど、クリアすべきステップがいくつもあります。そこでおすすめなのが、「定置網漁業」や「船びき網漁業」など雇用型の漁業にまず就職し、地域になじみながら独立自営漁師を目指すパターンです。これだと一定の収入を得ながら漁村に知り合いが増えるので、漁業について教えてもらったり、漁船や漁具のそろえ方も相談できたりして、クリアすべきステップのハードルが一気に下がります。



お問い合わせ

【新規就業の相談窓口】

(公財)三重県農林水産支援センター(担い手育成支援課) TEL0598-48-1226
三重県水産協議会(水産振興室) TEL059-228-6670

【三重県の漁業について】

三重県農林水産部(水産経営課) TEL059-224-2606



三重県には37万haの森林があり、県土の3分の2を占めています。林業はこの広大な森林を支える重要な仕事です。自分が手入れした森林が成長していく姿を見る喜びは格別です。認定林業事業体に就職すれば、「緑の雇用」制度によりさまざまな技術研修を受けることも可能です。

(注)認定林業事業体とは、「林業労働力の確保の促進に関する法律」に基づいて、知事から改善計画の認定を受けた事業体を言います。

三重で林業を始めたいあなたの疑問にお答えします。

Q1 林業ってどんな仕事ですか？

木を植え、下刈りや間伐などをして長い年月かけて木を育て、収穫期に伐採して利用し、またそこに木を植えるというサイクルを繰り返すのが林業の基本です。この中で、チェーンソーや刈払機といった動力機械を扱ったり、高性能林業機械を操作したり、苗木を育てたり…と、その内容は幅広いものとなっています。

Q2 林業に必要な資格はありますか？



林業に必要な資格は多岐にわたります。例えば、業務でチェーンソーや刈払機といった動力機械を扱うためには、労働安全衛生規則に基づく講習(安全教育や特別教育)を受講する必要があります。この他にも、重機類を操作するための特別教育や技能講習など受講すべき講習等が複数あります。これらの講習等を修了していなければ就職できないことはありませんが、既に修了していれば就職に有利です。なお、これらの資格は就職後に「緑の雇用」研修の中でも取得することができます。

(必要な特別教育等の例)

- ・伐木等の業務に係る特別教育
- ・刈払機取扱作業員に対する安全衛生教育
- ・車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)運転技能講習 etc…

Q3 林業を始めるには、どうすればよいですか？

まずは、森林組合等の林業事業体に就職することから始めてください。三重県では、(公財)三重県農林水産支援センターが「三重県農林漁業就業・就職フェア」を夏と冬の年2回開催していますので、このような就職相談会の場を活用して林業事業体の情報を収集する方法などがあります。

Q4 林業を始めるのに年齢制限はありますか？

基本的に年齢制限はありません。ただし、林業作業は厳しい自然条件下で強度の労働を求められる場合があることから、継続するには体力・忍耐力が必要です。また、林業作業には常に危険が伴うことも覚悟する必要があります。

Q5 三重県にはどんな林業事業体がありますか？

平成28年4月1日現在で三重県には、「林業労働力の確保の促進に関する法律」に基づいて知事から改善計画の認定を受けた46の事業体(「認定林業事業体」と言います。)があります。これら認定林業事業体に就職すれば、「緑の雇用」制度により様々な技術研修等を受けることが可能です。

Q6 「緑の雇用」とは何ですか？

国事業である「緑の雇用」現場技能者育成対策事業のことを言います。この事業では、認定林業事業体に新たに就職した人に対し、講習(集合研修)や実地研修(OJT研修)によって、必要な技能や資格を習得することを支援しています。また、経験年数を重ねた方にはキャリアアップできる研修も用意されています。

「緑」を大切に地域に溶け込む



【移住者profile】

家族:井畑 栄一さん(43歳)※
大阪からいなべ市へ移住

※年齢は平成27年7月28日
取材時

移住のきっかけは、三重県であったチェーンソーの講習会で「農林漁業就業・就職フェア」があることを知り、参加したことです。このフェアで、今の勤務先である「佐藤林業」の社長に出会い、誘ってもらいました。また、就職にあたっては、(公財)三重県農林水産支援センター(三重県林業労働力確保支援センター)のアドバイザーの方も親身になって相談に応じてくれました。

こうした縁があって、平成15年に移住しました。都会育ちで未知の世界である「林業」への就職は不安だけでしたが、妻の理解もあって「とにかくやってみよう」という思い

で飛び込みました。

林業の仕事は体力的に大変で、運動は得意な方でしたが、仕事に慣れるまで半年くらいかかりました。就職してから「緑の雇用」事業の研修や三重県が実施する研修等に参加し、4年かけて必要な資格を取得しました。今では、毎日、自然の中



でストレスを感じることなく働いています。自分たちが手入れした森林が成長していく姿が目に見えて、それが楽しいです。残業もないので、家族と過ごす時間もしっかり持っています。移住に際しては、とにかく「緑」を大切に一步一步進んでいくことだと思っています。



お問い合わせ

【新規就業の相談窓口】 【「緑の雇用(集合研修)」について】

(公財)三重県農林水産支援センター(三重県林業労働力確保支援センター)
担い手育成支援課 TEL0598-48-1226

【三重県の森林・林業について】

三重県農林水産部(森林・林業経営課) TEL059-224-2991

【「緑の雇用(OJT研修)」について】

三重県森林組合連合会 TEL059-227-7355

三重での仕事さがしならこちら！

三重の
お仕事

移住するにあたって気になるのが、仕事のこと。安定した生活のためには働くことが重要になってきます。

三重県は農業や水産業などの第1次産業だけでなく、自動車産業などのもの

づくり企業や、サービス業も数多く、魅力的な企業がたくさんありますよ。三重県の職探しの中心である「おしごと広場みえ」と、東京の「ええとこやんか三重移住相談センター」をご紹介します。



おしごと広場みえは三重県の津駅に隣接するアスト津にあり、就職を目指す若者の方に様々な支援を行っています。県内の企業に精通している経験豊富なアドバイザーが、就職に関する相談などを親身になってお手伝い。若者応援ハローワークもありますので、県内企業の求人検索や紹介状の発行も可能です。県内の優良企業情報もご紹介します。大阪では予約制で毎月2回、就職に関する出張相談も行っています。

また、併設している三重県人材・Uターンセンターでは、年齢を問わず、県内就職を目指す方々の様々な支援を行っています。

おしごと広場みえ(三重県人材・Uターンセンター)に来れば、三重の就職を全力でサポート!おしごと広場みえはみなさんの就職を応援しています。

おしごと広場みえ (三重県人材・Uターンセンター)

平日9:00~18:00開館

三重県津市羽所町700アスト津3F

JR・近鉄津駅徒歩1分

TEL:059-222-3309

Email : oshihiro@pref.mie.jp

みえU・ターン就職相談in関西

毎月第2・4水曜日11:00~16:00

三重県関西事務所

大阪市北区梅田1丁目11-4

大阪駅前第4ビル8階

(完全予約制:2日前の18時までにおしごと三重に電話でお申込みください)

ええとこやんか三重移住相談センター

火曜~日曜10:00~18:00開館

東京都千代田区有楽町2-10-1東京交通会館6F

JR山手線・地下鉄有楽町線有楽町駅 徒歩1分

地下鉄銀座線・丸ノ内線・日比谷線銀座駅 徒歩3分

TEL:03-6273-4401

URL:

http://www.ijyu.pref.mie.lg.jp/contents/mie_news_detail.php?no=135

ええとこやんか三重移住相談センターは東京・有楽町にある東京交通会館の6階にあります。移住に関する相談だけでなく、就職アドバイザーを配置しており、三重県の仕事についての相談が東京でも可能です。

また、年間を通じて移住相談会での就職相談や、U・ターンセミナーを開催しています。セミナーには三重県企業の人事担当者も参加。直接会話することで、普段はなかなか聞けない三重の就職に関する情報が聞けるかもしれません。ぜひ移住相談センターへ、お気軽にお立ち寄りください!



三重県の北中部では、四日市市や鈴鹿市を中心に、先端技術を駆使したものづくり産業や化学コンビナートなど、多くの企業があります。一方、県南部では、山・川・海に囲まれ、農業や水産業などの第一次産業のほか、観光や宿泊などのサービス業が盛んです。また、三重県の有効求人倍率も平成25年6月以降1倍以上の高水準で推移し、全国平均を上回っています。

三重県では、次世代自動車、航空宇宙などを支える先端ものづくり産業や、地域に密着した観光関連などの「サービス産業」、環境・エネルギーや医療・健康関連などの産業の創出に取り組み、持続的な成長のため、多様な産業構造の構築を目指しています。



移住までのSTEP

自分や家族のライフスタイルを大きく変える田舎暮らし。憧れの暮らしを実現する幸せな移住のためには、しっかりと準備をすることが大切です。ここでは、基本となる9つのステップを紹介します。

START

STEP 1 田舎暮らしの目的を確認しよう

よく「都会暮らしは疲れるから田舎で暮らしたい」という声を聞きますが、なぜ田舎で暮らしたいのかという目的を明確にしましょう。農業をしたい、家族でこんな暮らしをしたいなど、目的を具体的にイメージすることで、田舎暮らしへの道が見えてきます。

STEP 4 情報収集のコツ

住んでみたい地域がある人は、その地域を訪れて自治体の移住相談窓口や民間の不動産業者を訪ねるのが早道です。そうでない人は「全国移住ナビ」などの移住情報サイトを活用したり、移住・交流に関する総合的な情報提供を行う政府の「移住交流情報ガーデン」や「NPO法人ふるさと回帰支援センター」などを訪れる手もあります。

STEP 2 パートナーや家族の思いは？

パートナーや家族と共に田舎暮らしを楽しんでいる人々がいる一方、夫は夢中だけど妻や子どもは無関心、というケースも見られます。じっくりと話し合ってお互いの気持ちを尊重することが大切です。田舎に定住する以外にも週末移住など二地域居住という方法もあります。家族が幸せになる田舎暮らしのスタイルを作りましょう。

STEP 3 優先順位をリストアップ

田舎暮らしに求めるものは、人それぞれです。温泉が好きな人であれば好きな温泉の近くに住みたいでしょうし、雪のない地域で暮らしたい人には、暖い海辺などが良い田舎の条件になります。優先順位を3つぐらいに絞って考えると、あなたに適した田舎の条件やイメージが浮かんできます。それをもとに情報収集をしましょう。

STEP 5 田舎暮らしを体験しよう

いざ田舎暮らしを始めると、憧れていたことと現実とのギャップが必ず生じます。あらかじめそのギャップを少しでも知り、埋めていくために、希望する地域での田舎暮らしを体験しておきましょう。ネットなどで調べれば、田舎暮らしを体験できるプランや施設が見つかります。体験を通して出会う人から、たくさんの情報が得られるはずです。

STEP 6 空き家見学のコツ

田舎の空き家を手に入れる方法は、不動産業者と自治体による斡旋があります。最近では、空き家バンク制度を設ける自治体も急増しており、賃貸で住める場合もあります。空き家は傷んでいる物件が多く、見学の際は、特に水回りを中心に家の状態をしっかりとチェックすることが大切です。また空き家のこと以外にも、対応いただいた業者や担当者によるその地域の生活情報や伝統文化、慣習などの情報もうかがっておきましょう。

STEP 7 仕事の探し方

東京にUターン転職の相談窓口や人材バンクシステムを用意している自治体は数多くあります。また、ハローワークのインターネット・サービスは市町村まで対応しています。移住を目指す地域がある場合は、それらを活用すると良いでしょう。農林水産業に関心がある方は、東京、大阪や各都道府県の県庁所在地など主要都市で催される農林水産業の就業就職フェアに参加することをおすすめします。

STEP 8 移住前の準備

移住先が決まったら、引っ越し費用や建物の補修費用、当面の生活費など移住にかかる費用を見積もります。予想外の支出も生じますので、貯蓄は余裕がある方が安心です。事前に何度か通い、その地区の区長さんに挨拶をするなど、地元の人たちと少しでも交流があれば移住もスムーズに行えます。田舎は車社会なので、車の運転免許も可能な限り取っておきましょう。

STEP 9 挨拶回りをしよう

無事、引っ越しが終わったら、地区の区長さんやお世話になった方に改めて挨拶にうかがいます。これからもお世話になるお礼に手土産を持参するのが普通です。自分たちがどう暮らしたいのかも伝えておきましょう。また、近所の方々への挨拶回りも必要です。地域によっては数十軒に及ぶ場合もありますので、区長さんに相談すると良いでしょう。また、道で出会う人にも気軽に挨拶を交わしましょう。田舎はたいていの人顔見知りであり、挨拶がその地域に溶け込む第一歩となります。

あなたの三重暮らしを
応援します！

相談窓口

三重暮らしを始めるためには、現地の情報を集めることが大切。三重県には、地元のサポート体制や地域の様子など、どんなことも気軽にご相談いただける窓口を設置。あなたの「三重暮らし」を全力で応援します！



いなべ市都市整備部都市整備課
近藤 拓真
TEL / 0594-74-5812
FAX / 0594-74-5800
e-mail / t-kondo02@city.inabe.mie.jp



四日市市政策推進部政策推進課
矢野 雄介
TEL / 059-354-8112
FAX / 059-354-3974
e-mail / seisakusuishin@city.yokkaichi.mie.jp



亀山市企画総務部企画政策室
川戸 祐希
TEL / 0595-84-5770(移住相談)
FAX / 0595-82-9685
e-mail / kikaku@city.kameyama.mie.jp



伊賀市地域づくり推進課移住交流係
移住コンシェルジュ 松見 くみ子
TEL / 0595-22-9680
FAX / 0595-22-9694
e-mail / chilkidukuri@city.iga.lg.jp



名張市企画財政部地域活力創生室
中重 敬裕
TEL / 0595-63-7782
FAX / 0595-64-2560
e-mail / sousei@city.nabari.mie.jp



大台町役場企画課
保田 知希
TEL / 0598-82-3782
FAX / 0598-82-1618
e-mail / odai-ki@odaitown.jp



大紀町役場企画調整課
小倉 寿章
TEL / 0598-86-2214
FAX / 0598-86-3500
e-mail / akiya@town.mie-taiki.lg.jp



紀北町役場企画課企画係
井谷 雅/塚越 美奈子
TEL / 0597-46-3113
FAX / 0597-47-5908
e-mail / kikaku@town.mie-kihoku.lg.jp



尾鷲市市長公室人づくり支援係
尾鷲市定住移住コンシェルジュ 木島 恵子/鈴木 教平
TEL / 0597-23-8116
FAX / 0597-22-2111
e-mail / hito@city.owase.lg.jp



熊野市市長公室企画調整第1係
土口 泰明
TEL / 0597-89-4111
FAX / 0597-89-5501
e-mail / koushitsu@city.kumano.mie.jp



紀宝町役場企画調整課
大谷 佳輝
TEL / 0735-33-0334
FAX / 0735-32-1102
e-mail / kikaku@town.kiho.lg.jp



南伊勢町役場行政経営課若者定住対策係
羽根 俊介
TEL / 0599-66-1366
FAX / 0599-66-1846
e-mail / gyousei@town.minamiise.lg.jp



御浜町役場企画課
大畑 綾子
TEL / 05979-3-0507
FAX / 05979-2-3502
e-mail / m-kikaku@town.mihama.mie.jp

相談窓口設置市町 三重暮らし応援制度一覧



木曾岬町役場総務政策課
中山 重徳
TEL / 0567-68-6100
FAX / 0567-68-3792
e-mail / seisaku@town.kisosaki.mie.jp



鈴鹿市都市整備部住宅政策課
鈴枝 寛規
TEL / 059-382-7616
FAX / 059-382-8188
e-mail / jutakuseisaku@city.suzuka.lg.jp



津市美杉総合支所地域振興課
須場 督介
TEL / 059-272-8082
FAX / 059-272-1119
e-mail / 272-8080@city.tsu.lg.jp



松阪市飯南地域振興局地域振興課
中村 元
TEL / 0598-32-2511
FAX / 0598-32-3771
e-mail / chishin.nan@city.matsusaka.mie.jp



多気町役場企画調整課
中村 直司
TEL / 0598-38-1124
FAX / 0598-38-1140
e-mail / kikaku@town.mie-taki.lg.jp



明和町役場防災企画課
霜 幸佑
TEL / 0596-52-7112
FAX / 0596-52-7133
e-mail / bousai@town.mie-meiva.lg.jp



伊勢市企画調整課
太田 徹
TEL / 0596-21-5510
FAX / 0596-21-5522
e-mail / kikaku-cyousei@city.ise.mie.jp



鳥羽市企画財政課移住・定住係
重見 昌利/中村 風太/谷水 由美子
TEL / 0599-25-1227
FAX / 0599-25-3111
e-mail / iju-teiju@city.toba.mie.jp



志摩市政策推進部総合政策課
東 桂一
TEL / 0599-44-0205
FAX / 0599-44-5252
e-mail / sogoseisaku@city.shima.lg.jp



玉城町役場総合戦略課
永井 友樹
TEL / 0596-58-8208
FAX / 0596-58-4494
e-mail / senryaku@town.tamaki.lg.jp



度会町役場政策調整課
田畑 諒
TEL / 0596-62-2423
FAX / 0596-62-1647
e-mail / seisaku@town.watarai.lg.jp

	暮らす						働く					福祉・医療		
	田舎暮らし体験	空き家バンク	移住アドバイザー	住宅助成(取得・修繕)	移住支援助成	短期滞在住宅(おためし住宅)	農林漁業体験	就農支援	就漁支援	起業支援	求人バンク	空き店舗バンク	子ども医療支援	子育て支援
いなべ市	🏠	🏠	🏠					👛				👛	+	+
木曾岬町			🏠					👛					+	+
四日市市		🏠	🏠	🏠				👛		👛			+	+
鈴鹿市		🏠	🏠					👛		👛			+	+
亀山市		🏠	🏠 ※2					👛		👛			+	+
津市 (美杉地域)	🏠	🏠	🏠 ※1※2	🏠			👛	👛		👛			+	+
松阪市 (飯南・飯高地域)	🏠	🏠	🏠 ※2	🏠 ※2									+	+
明和町								👛		👛			+	+
多気町		🏠	🏠	🏠 ※1	🏠 ※1			👛					+	+
玉城町										👛			+	+
度会町								👛					+	+
大台町	🏠	🏠	🏠	🏠	🏠	🏠	👛	👛		👛	👛	👛	+	+
大紀町	🏠	🏠	🏠 ※1										+	+
伊勢市			🏠					👛		👛			+	+
鳥羽市	🏠	🏠	🏠	🏠	🏠	🏠	👛	👛	👛	👛	👛	👛	+	+
志摩市		🏠	🏠 ※2					👛					+	+
南伊勢町	🏠	🏠	🏠					👛		👛	👛	👛	+	+
伊賀市	🏠	🏠	🏠	🏠						👛	👛	👛	+	+
名張市		🏠	🏠				👛	👛		👛			+	+
紀北町	🏠	🏠	🏠	🏠		🏠	👛	👛	👛	👛			+	+
尾鷲市	🏠	🏠	🏠	🏠		🏠	👛		👛	👛	👛	👛	+	+
熊野市	🏠	🏠	🏠	🏠	🏠	🏠	👛	👛	👛	👛			+	+
御浜町		🏠	🏠		🏠			👛					+	+
紀宝町		🏠	🏠 ※2					👛	👛				+	+

※1 空き家バンク利用に限る ※2 修繕のみに限る

01



北勢エリア

いなべ市 朝日町
 桑名市 川越町
 東員町 四日市市
 菰野町 鈴鹿市
 木曾岬町 亀山市



中京圏に近く、 県の経済・産業の中心エリア

名古屋に近い経済・産業の中心エリアで、都会暮らしと田舎暮らしを両立できます。

県北部、名古屋など中京圏に近いエリアで、人口も集中した都市が多く点在。特に製造業などが盛んで経済的にも活発です。また、高速道路や鉄道網などもよく整備され名古屋などの大都市圏へのアクセスも便利です。旧東海道の街道沿いには古い町並みも残り、機能的な都市機能の中に昔ながらの風情も伝えられています。



いなべ市



豊かな自然と好アクセスのまち いなべ

いなべ市は、北に養老山地、西に鈴鹿山脈が走り、中央を流れる員弁川を挟んで田園地帯が広がる緑豊かな土地です。山々が生み出す清流は、豊かな土壌を育み、良質米やお茶の産地として知られています。また、三重県の北の玄関口という立地により、名古屋圏へ車で1時間、関西圏へ車で2時間と利便性の高いエリアです。さらに東海環状自動車道の工事が進められており、産業の発展や交流人口の増加が見込まれます。近年では、豊富な自然や快適な道路環境が評価されて、国際自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン」が開催されて多くのサイクリストが訪れます。

東員町



おみごと!があふれる町へ

広さは東京都品川区とほぼ同じで、人口は約1/15の東員町。すこく都会ではなく、すこく大自然ではなく、ほど良い便利さと自然を併せ持つのが「東員町」の魅力。藤原岳や御在所岳へ、名古屋へも車で約40分ほど(高速バスもあります)。町の中心には子育て世代に人気の大きな中部公園があります。東員町は「健康活躍のまち」を目指しており、キャッチフレーズは「OMIGOTOIN」。小さなことから大きなことまで、みんなの「おみごと!」な活躍があふれる町、そんな東員町をのぞいてみてください。

桑名市



“本物”であふれる桑名市

桑名市は三重県の北部、木曾三川が注ぐ伊勢湾最奥部に位置しています。西に鈴鹿、北に養老の山並、東に濃尾平野が広がる、水と緑豊かな自然環境のもと、江戸時代から東海道五十三次の宿場町・城下町・湊町として栄え、今でも、東名阪自動車道や国道1号などの主要国道、JRや近鉄など主要幹線が集中する交通の要衝として発展を続けています。また、全国的にも有名なレジャー施設などを有する県下最大の観光都市です。さらに、平成28年4月に「2016年ジュニア・サミットin三重」が桑名市を主会場に開催され、海外からも注目される国際観光都市となりました。

菰野町



自然の中に人々が集う、笑顔と活力のまち 菰野

御在所岳を中心とする観光スポットがあり、鈴鹿山脈の麓に位置する自然豊かな環境に恵まれた菰野町。1300年の歴史を有する湯の山温泉や日本一の鉄塔を誇る御在所ロープウェイをはじめ、毎年10月に行われる「鈴鹿山麓かもしかハーフマラソン」は5千名を超えるランナーで賑わう、町の一大イベントとして全国に知られています。多くの人に楽しみ、親しんでいただける菰野町をめざしていますので、ぜひお越しください。

木曾岬町



子育てするなら木曾岬町

鈴鹿の山々や広大な伊勢湾など豊かな自然に囲まれた水郷輪中の町「木曾岬町」は、三重県の最北端に位置し、名古屋エリアへのアクセスも非常に良好な立地環境にあります。「子育てするなら木曾岬町」を合言葉に、妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目のない支援体制を展開するなど、県内でもトップレベルの育児環境を自負しております。

四日市市



ちょうどいいが ここにある

四日市市の魅力は「バランスのよさ」。多くの商業店舗等が立地し、都市的な魅力に溢れる市街地エリアがあり、さらに内陸部に立地する世界最先端の半導体工場をはじめ、多様な産業が集積する産業都市としての顔を持つ一方で、茶畑や里山など、豊かな自然も多くあります。加えて、親子支援、育児相談、さらには少人数教育の充実など、子育て・教育にも力を入れています。働き場所が確保でき、子育てもしやすい四日市で暮らしてみませんか!都会すぎず、田舎すぎずの「ちょうどいいが ここにある」。是非いちど、「四日市においなよ!」

朝日町



あさひちょうだよ!全員集合!

県内で一番小さな朝日町は、丘陵地開発による子育て世代の流入により、近年人口増加傾向にあり、その結果、平成27年国勢調査において年少人口割合が日本一の自治体となりました。小さな町の強みを生かした「人と人とのつながり」「身近な支援」などの施策により「いきいき暮らす緑と歴史のまち」をめざしています。また、小学校には全国的にも珍しい4階建ての円形校舎が存在します。菟松明に火をつけて裸で叩き合う八王子祭りや町民主体の祭り「サマーフェスタASAHI」も存在し、活気あふれるまちです。ぜひお越し下さい。

鈴鹿市



さあ、きつともっと鈴鹿。

F1や8時間耐久ロードレースの開催地でモータースポーツのまちとして知られている鈴鹿市は、自動車産業をはじめとする企業が多く立地する県下有数の商工業都市であり、東に伊勢湾、西に鈴鹿山脈といった海や山などの豊かな自然にも恵まれています。特に、子育て世帯に必要な、ショッピングセンター、病院、保育所、公園施設などが充実しています。移住がはじめての方にも暮らしやすいまちですので、お気軽にご相談ください。

川越町



笑顔あふれる元気な町 かわごえ

川越町は伊勢湾岸自動車道をはじめ、国道1号線・23号線、近鉄名古屋線など交通条件もよく、臨海部を中心に多くの企業が立地しており、また豊かな自然環境と子育てしやすい環境から、若い世代を中心に人口も流入し、全国的には人口減少が進む中、将来も人口増加が見込まれる町です。8.73 km²の小さな町ですが、産業も人も元気な町として発展してきました。この元気をいつまでも保つために、町民の皆さん、各種団体、企業の皆さんと協働して、みんなの力でみんなの幸せを育む「まち」の実現を目指しています。

亀山市



小さなまちで便利に暮らす

亀山市は三重県の中北部に位置し、豊かな自然が残りながらも、高速道路や鉄道のターミナルになっており、普段は落ち着いた生活を送りつつ、名古屋や大阪などの大都市に1~2時間でアクセスできる利便性もあります。緑豊かな里山と、江戸時代の風景を残す街道、そして普段の生活に必要なまちの機能、バランスよく色々な表情を持つ亀山市は、住むほどに居心地のよさが実感できます。小規模都市だからこそ、顔が見える関係と小回りの利くサービスは、住んでみてこそ実感できるものです。小さなまちで便利に暮らす生活を楽しんでみませんか。



02



中勢エリア

津市
松阪市
明和町
多気町
大台町
大紀町



行政の中心であり、地方都市の集まる地域



三重県の真ん中で平野が広がる田園地帯。中山間部にもすぐ近く、地方都市での田舎暮らしが満喫できます。

県中央に位置するエリアで、人口約28万人の県都・津市をはじめ、人口約16万人の松阪市など、地方の中核都市が集中する行政の中心地です。その一方、市街地近郊には豊かな田園風景が広がり、清流や渓谷など、美しい自然に恵まれや中山間部も身近にあります。高速道路も整備され、名古屋や関西などの大都市圏へのアクセスも便利です。

津市〈美杉地域〉



美杉で「ほっ」としませんか

津市は田舎暮らしを希望する方に、空き家情報バンクの設置や田舎暮らし体験を実施しています。また田舎暮らしアドバイザーを委嘱し、田舎暮らしを始める人などへの相談や助言を行っています。バンク利用者の改修支援として補助金制度を設置しています。

美杉地域の森林は三重県で唯一の森林セラピー基地に認定されています。美杉の自然を気に入り森林セラピストとして活躍したり、古民家を改修して休憩所や喫茶を営んだり。豊かな自然や温かい地域に溶け込んだ生活を営むことができますよ。また、ローカル鉄道名松線でゆったりとした時間を過ごすのもいかがでしょう。

津市美杉地域で「ほっ」としませんか。

松阪市〈飯南・飯高地域〉



神様も途中下車する松阪市

伊勢へと向かう本街道、この地域は古くから西日本とお伊勢さんを結ぶ要衝地。伊勢三山と呼ばれる雄大な山々の間を、日本を横断する中央構造線と一級河川が併走し、その水源によって肥沃な山河が薫りたつ香肌峡。

世界のブランド松阪牛の発祥地であり、数百万もの石積によるだんだん田、徳川家八代将軍への献上茶や、全国に優良材を供給する豊かな山林は四季に彩られた多彩な姿を見せる。

そんな賑やかさに惹かれて来客も神様も途中下車、あなたの六感まで刺激するこは、飯南飯高。

明和町



ほどよく快適!住むなら明和町

三重県のほぼ中央部にある伊勢平野の南部、松阪市と伊勢市の間に位置する人口約2万3千人の町です。平野が多いことから良質米の産地となっており豊かな田園風景が広がっています。

交通面では、国道23号線が東西に走っているほか、近畿日本鉄道の駅が2つあることから、大阪・名古屋へのアクセスも良好です。

2015年には国の史跡に指定された斎宮をとりまく文化・伝統のストーリー「祈る皇女素王のみやこ 斎宮」が日本遺産として文化庁から認定され、さらなる観光振興や地域活性化が期待されています。

大台町



自然に寄り添い暮らしを楽しもう

大台町は、三重県の中南西部に位置し、町の中央を清流宮川が流れています。主幹産業である林業や茶業は、宮川の恵みであり、人々の暮らしと文化に大きく影響しています。大台町は、東紀州・伊勢・奈良・松阪へと今も昔もモノと人々が行きかう起点となっています。

宮川を育む豊かな自然環境と人々の営みは、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク」として登録され「自然と人の共生」のモデル地域となりました。

四季を通して、大台町を体験するツアーも各団体により実施されています。町を知るきっかけに是非ご利用ください。

多気町



自然と温かい人と元気が溢れています!

買い物や病院、働く場など生活の利便性も良い、自然豊かなまち。

古くから農業が盛んなまちで、伊勢芋、前川次郎(柿)、伊勢茶、しいたけ、みかん、松阪牛、鮎など、潤いのある大地からたくさんの特産品が生産され『食のまち』としても知られています。また、子育て支援も充実しており、遊びや学びを提供し健やかに育っていくため、保健・福祉・教育が連携し、育つ子どもの途切れのない支援を行っています。

どこよりも『温かい人』、『元気な人』が多く『ふるさとを想う気持ちいっぱい』のまちに来てみませんか。

大紀町



子育てを全力で応援!大紀町

三重県の中南部に位置する大紀町は、海・山・川と豊かな自然に恵まれた町です。

JR紀勢本線や国道42号線等に加え紀勢自動車道も整備されアクセスがさらに便利になりました。また、全国的に有名な松阪牛の産地で、他にも大内山酪農の乳製品や錦の海産物など美味しい魅力もたくさんあり、毎年秋に開催する「大紀ふれあいまつり」で味わうことができます。

「人の命は何よりも大事・子供は町の宝・お年寄り」を基本理念とし、防災・減災対策や子育て支援、高齢者への応援に力を入れています。

03

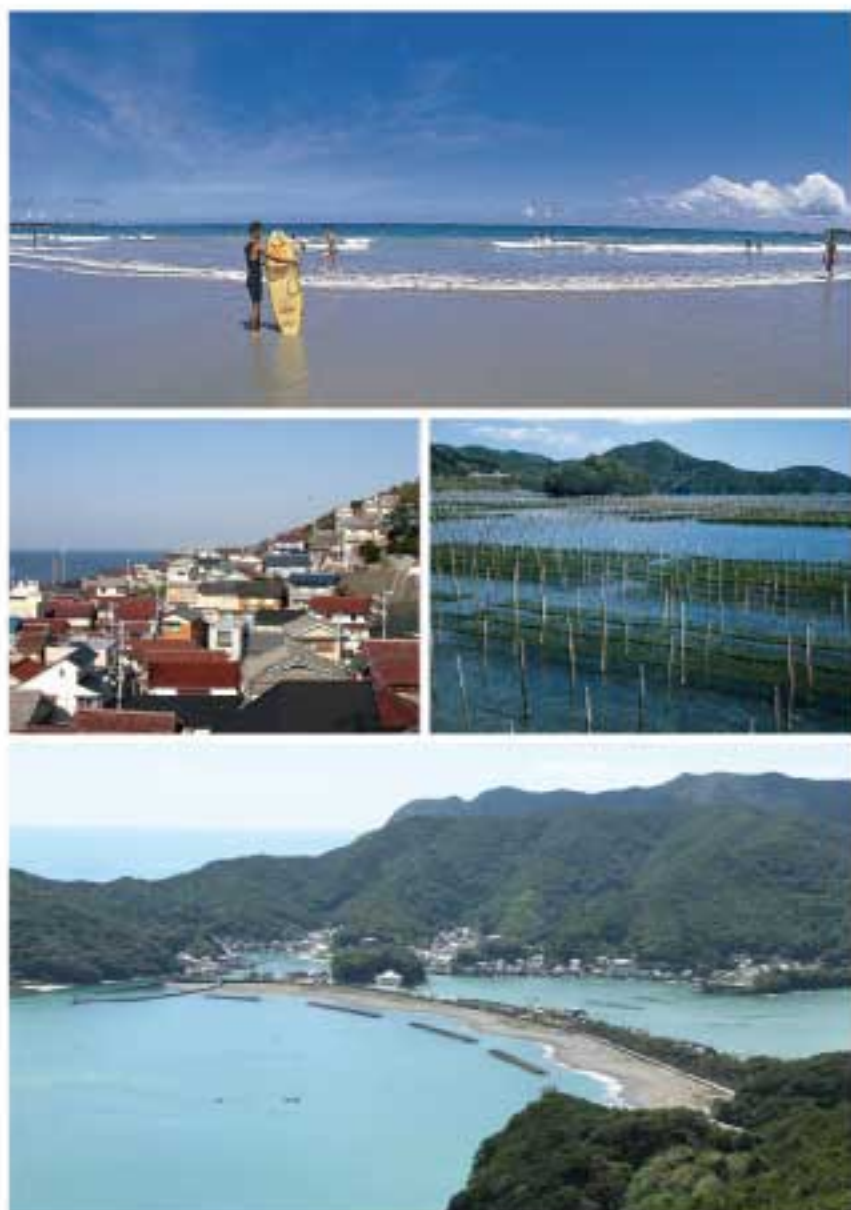


伊勢志摩エリア

伊勢市
玉城町
度会町
鳥羽市
志摩市
南伊勢町



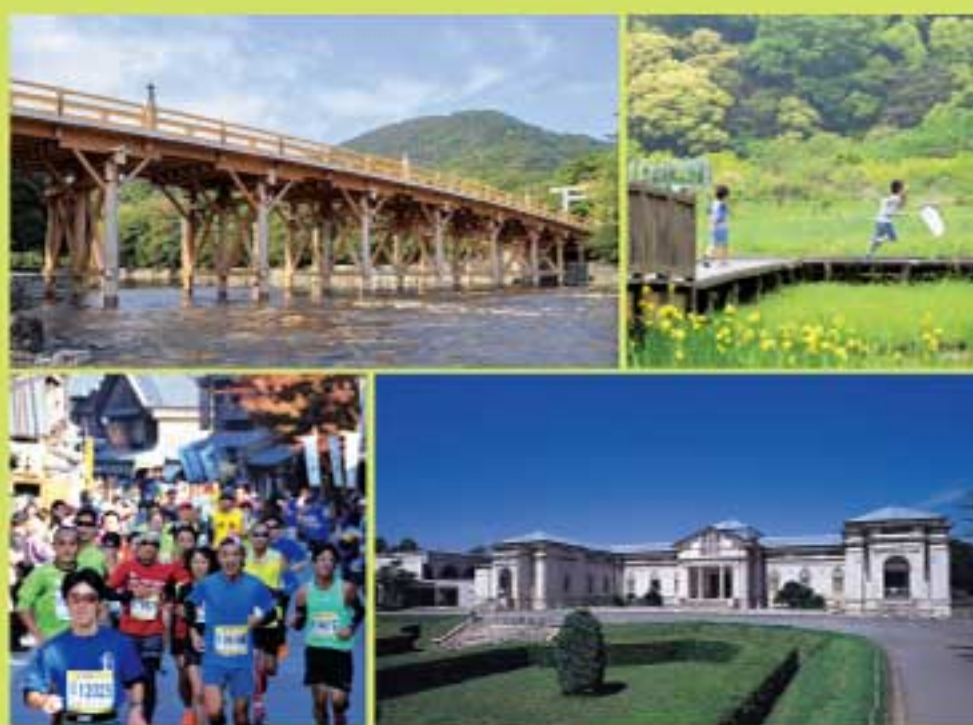
古くから親しまれる海洋リゾート



伊勢志摩国立公園や伊勢神宮があり、自然と歴史文化が融合しているエリア。漁業、水産業、農業や観光業が身近です。

日本人の心のふるさととして親しまれる「伊勢神宮」をはじめ、古くから日本を代表する海洋リゾートとして発展してきた地域です。特に、観光関連産業が盛んですが、昔から「御食国(みけつくに)」といわれるように、豊富な海の幸に恵まれてきた地域でもあります。美しい風景の中に歴史のロマンも受け継がれています。

伊勢市



伊勢市でちょうどいい暮らし。

伊勢市は「お伊勢さん」、「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれる伊勢神宮が約2,000年前から鎮座し、年間約800万人が訪れる日本有数の観光都市です。

伊勢神宮と緑の深い生活文化や歴史情緒ある街並み、美味しい食べものときれいな水、都会と田舎の間の「ちょうどいい」暮らしなど、生活者にとっての魅力も豊富です。

また、伊勢神宮奉納全国花火大会、お伊勢さんマラソンなどの全国規模のイベント、四季折々の自然(海・川・山・森)、豊富な美術館・博物館施設など、多くの市民が観覧・参加を楽しんでいます。

玉城町



“家族でずっと暮らしたくなるまち”

伊勢平野の南部に位置する玉城町は、豊かな田園が広がり時間(とき)が止まっているかのように感じられます。

古来より伊勢参宮の宿場町、世界遺産熊野古道の街道起点をなす要衝として栄えた歴史あるまちです。町の象徴となっている田丸城跡は、桜や大賀ハスの名所といわれ人々の憩いの場となっており、町内各地では名産品の玉城豚や四季折々の農作物を栽培しています。

現在は、高齢者の外出を支援するICTを活用したオンデマンドバスの運行、英語をはじめ保・小・中のつながりのある学校教育に取り組んでいます。ぜひ、玉城町へお越しください。

度会町



緑が豊かな自然のまち 度会

度会町には水質が最も良好な河川に輝いた清流「宮川」や支流の「一之瀬川」が流れています。

きれいな川の周辺にはお茶畑が広がり、緑が溢れる自然のまちです。清流「宮川」のほとりには「宮リバー度会パーク」があり、春には花見、夏にはバーベキュー等季節にあったイベントを楽しめます。

近年では、この恵まれた自然を活かし、SUPやラフティング等、川のレジャー強化に取り組んでいます。

度会町の自然の中にはあなたのところを揺さぶる風景がまだまだ隠れています。あなた自身の目で、あなただけの風景を探してみませんか。

志摩市



海と暮らす志摩

志摩市は、全域が伊勢志摩国立公園に指定されており、英虞湾、的矢湾といったリアス海岸が特徴的で、大小さまざまな島が点在する自然豊かな地域です。

豊かな自然を生かした水産業や農業、そして観光業が市の基幹産業となっており、隣接する伊勢市や鳥羽市、南伊勢町が通勤圏内であることから、市外へ通勤する方もいます。

気候は四季を通じて温暖な地域であり、積雪を見ることは稀です。

アクセスは、電車で東京から4時間弱、名古屋と大阪からおよそ2時間。都会では味わえない豊かな時間を過ごせる場所が志摩市です。

鳥羽市



子育て世帯や未来を拓く若者を 応援するまち

日本で最も海女さんが多いまち、世界で初めて真珠養殖に成功したまち、鳥羽市には美しい海、豊かな海の幸、独自の文化を残す離島など、数えきれない魅力で溢れています。また、自然、海とともに生きる海女さんや、温かい人々につつまれのびのび育つ子供たちなど、まちに誇りを持ち、生活に幸せを感じる人たちの笑顔で溢れています。

移住者受入れの専門部署を設置し、「切れ目ない、きめ細やかな支援」に取り組んでいます。魅力的なライフスタイルを実現し、人生の夢・目標を叶えられる鳥羽で、心豊かな暮らしを始めませんか？

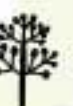
南伊勢町



国立公園の中での暮らし

南伊勢町は、三重県の中南部に位置し、町域の約6割が伊勢志摩国立公園に指定されている海に面した自然豊かなまちです。少し足を伸ばせば、伊勢神宮や熊野古道などもあります。この町は、漁業と農林業が基幹産業であり、特に漁業ではまき網漁業や養殖漁業が盛んで三重県下一の水揚げ高を誇ります。鯛やマグロ、伊勢海老や牡蠣にサザエ、あおさのりなど、美味しくて活きの良い新鮮な魚介が1年を通して獲れます。

また、住む人は心温かい人たちばかりで、魚や野菜のお裾分けやご近所付き合いなどが日常的に行われています。人と人の絆が強い南伊勢町でのどかに暮らしてみませんか？



04



伊賀エリア

伊賀市
名張市



関西圏にアクセス便利なエリア

関西圏との結びつきが強く、大阪は通勤圏内です。市街地からちょっと足を延ばせば、自然に恵まれた環境もあり、子育てもしやすい地域です。

古くから関西圏と結びつきが強いエリアで、大阪のベッドタウンとしても知られています。自動車専用道路である名阪国道(国道25号線)の無料エリアで、関西圏へのアクセスが便利で、製造業などの関西関連企業も多く進出しています。また、市街地の近くには豊かな自然に恵まれた景勝地もあり、観光業も盛んです。



05



東紀州エリア

紀北町 御浜町
尾鷲市 紀宝町
熊野市

山海の幸と豊かなコミュニティに恵まれた地域

三重県の南部。熊野灘に面し海の幸に恵まれた温暖な地域。林業や農業も盛んで、人情味あふれるコミュニティが残されています。

県最南部、熊野灘に面した自然豊かで温暖な地域。豊かな資源に恵まれた漁業はもちろん、温暖な気候を活かしたミカン栽培などの農業・林業など、一次産業が盛んです。豊かな自然と熊野古道などの世界遺産に恵まれ、古くからの伝統を受け継ぎ、地域には豊かなコミュニティが残されています。



紀北町



都会にないもの、なんでもあります。

一人一人が描く田舎暮らしを応援する紀北町では、空き家バンクなどの移住支援や、一次産業体験プログラム・就業相談など、実現可能な生活基盤を作るための支援を行っています。「待機児童」という言葉には縁のないのびのびした育児環境や、意外と不便ではない生活環境も整っており、子育て世代ファミリーにも満足度の高い毎日をご過ごして頂けます。そしてなにより、香りたつ美しい海、豊富な雨に育まれた山、透き通る清流、元気に交わす挨拶。都会にない豊かさに溢れた紀北町で、暮らしませんか。

尾鷲市



潮とヒノキの香りと共に暮らすまち

熊野灘の天然の良港として、古くから漁業が盛んな尾鷲市。温暖な気候、200種類以上の魚をもたらす最高の漁場、強靱な尾鷲ヒノキの森、漁業と林業で栄えたこのまちには、奇祭ヤーヤ祭など伝統を守り受け継ぐ人々の情熱があふれています。新鮮な魚に舌鼓を打ち、釣りやシーカヤックなど海に遊び、世界遺産熊野古道を歩く休日。山にもたれて海を見て暮らす、尾鷲ならではの「浦暮らし」をご希望の方は、是非一度尾鷲市にお越しください。移住相談員があなたの移住をサポートいたします。

伊賀市



AERA特集「移住しやすい街110」で最高ランクを獲得!!

伊賀市は、京都・奈良や伊勢を結ぶ街道を有し、古来より都(飛鳥、奈良、京都など)に隣接する地域として、また、交通の要衝として、藤堂家の城下町、伊勢神宮参拝者の宿場町として栄えてきました。伊賀忍者や松尾芭蕉のふるさととしても知られ多くの観光客が訪れます。「移住コンシェルジュ」による総合相談窓口や「空き家バンク」を設置しているほか、安心して子どもを産み育てるための切れ目ない支援にも力を入れています。また、災害が比較的少ないことや、大阪・京都・名古屋まで、最短でそれぞれ約1時間の距離にあることも大きな魅力です。

名張市



来てだあこ 見てだあこ 暮らしてだあこ 名張

名張市は三重県の西部に位置し、近畿・東海両圏の接点にあります。万葉の時代からの歴史・文化が息づき、豊かな自然に恵まれています。街中には多くの商業施設もあり、暮らしやすさが実感できます。自分たちの街をよくしようとする住民主体のまちづくりを全国に先駆けて実践。また、産み育てるにやさしいまちとして、妊娠から出産、育児を切れ目なくサポートする施設や制度が充実しています。

熊野市



家族が家族でいられる場所 くまの

熊野市は海も山も川もあるため、海辺や里山に住んで、どっぷり地域につかるのもよし、少し便利なまちに住んで、休みはちょっと海山川へ出かけてアウトドアを楽しむもよし。さまざまなライフスタイルが選べるまちです。子育て世代への支援は出産祝い10万円(地元商品券)、保育料0円(3歳以上)、スクールバス0円、100円給食、高校までの医療費0円など全国でもトップレベル。最近では、熊野市で子育てをしたいという相談や家族での移住が増えています。最近家族との時間を過ごせていますか。熊野市で生きる楽しみを見つけてみませんか。

紀宝町



海・山・川の恵みに抱かれたまち

紀宝町は、三重県最南端に位置しており、熊野川や七里御浜などの世界遺産を有する悠久の歴史が育んだ自然が魅力の町です。温暖な気候や豊かな自然を感じながら、のどかな暮らしや子育てを地域一体となって行うことができる生活環境は都市部にはない田舎ならではの魅力です。また、空き家バンク制度や農林水産業の就業支援、子どもの医療費支援、ファミリー・サポート・センター制度など生活支援制度も充実していますので、田舎への移住をお考えの方は何でもお気軽にご相談ください。

御浜町



“年中みかんのとれるまち”で田舎暮らし

三重県南部に位置する御浜町は熊野灘に面し、二十数キロ続く七里御浜海岸、そしてすぐ迫る山々など、自然豊かな場所です。冬でもめったに雪が降ることのない温暖な気候は、数十種類のみかんを育み、一年中どんな時期でも美味しいみかんを味わっていただくことができます。のんびりと穏やかなこの土地は人情にもその影響を与えてきたのかもしれない。移住希望者向けにウェルカムハウス(おためし住宅)もご用意しておりますので、ぜひ一度御浜町へお越しください!



下見 の ススメ



移住に際して、実際に住みたいと思う地域を訪れることは大切なポイント。実際に下見をすることで、移住への不安も解消し、地域への理解も深まります。移住を考えたら、まずは下見や「お試し」でその後の暮らしを確認しましょう！

中勢エリア

【津市美杉】

グリーンツーリズム美杉の風 農家民宿なかや

グリーンツーリズム美杉の風は、農家民宿なかやを拠点として活動しております。津市を流れる雲出川の源流の地にありその自然を満喫していただける体験プログラムを実施しています。夏は、初心者向けシャワートレッキング、溪流を利用した川魚掴み体験、パラグライダーの疑似体験など。グリーンツーリズムインストラクターであり、パラグライダーパイロットの指導者が、自然豊かな山間地でできるものや、大正時代からある竈などを利用した田舎暮らし生活体験の世界をご案内しております。宿泊いただいた場合は、五右衛門風呂体験、羽釜炊飯朝食体験も体験いただけます。



☎ 津市美杉町上多気 1312 TEL 059-275-0205

【松阪市】

茶業伝承館

松阪市飯南茶業伝承館は、茶業振興と茶製造技術の伝承を図るとともに、茶の歴史と茶情報の発信の拠点とするため設置された施設です。この施設では、お茶の淹れ方教室や昔ながらの手もみ茶製法を予約制で体験していただくこともできます。受入の可否や料金など詳しくは直接施設にお問い合わせ下さい。



☎ 松阪市飯南町粥見 1125-1 TEL 0598-32-4713

伊賀エリア

【名張市】

旧細川邸やなせ宿

初瀬街道の宿場町で古き良き風情を体感してください。観光情報の提供や地場物産等の紹介、ワンディシェフの日替わりレストランや各種イベント等を開催しています。



☎ 名張市新町 136 番地
TEL 0595-62-7760
近鉄名張駅から徒歩 14 分
<http://www.yanase-shuku.com/index.html>



【津市美杉】

たろっと(太郎生人) 三国屋

太郎生人 三国屋。その名の由来は、この地が伊賀、伊勢、大和三国の境に位置することにあると言われています。津市美杉町太郎生。森林セラピー基地の里。田舎暮らし体験ができ、田舎料理を食べながら静かな空間でゆっくりできる民宿。それが癒しの里たろっと(太郎生人)三国屋です。太郎生でしかできないおもてなし、ゆったりとした時間の流れをお楽しみください。登山やウォーキングの休憩、また、拠点として宿泊やお食事の用意(予約制)もできますので、皆さまのご活用をお待ちしています。



☎ 津市美杉町太郎生 2046-4 TEL 059-273-0001

【大台町】

大杉谷暮らし体験施設 (移住おためし住宅)

地元の人と交流し、生活環境を知る事で、ご自身の移住先に適しているかどうかじっくりご検討いただけます。

☎ 多気郡大台町久豆地内
TEL0598-78-8888
(大杉谷移住促進協議会)



<http://osugiiju.com/shisetsu.html>

【大紀町】

大紀町地域活性化協議会

世界遺産「熊野古道」や伊勢神宮内宮の別宮「瀧原宮」などの名所旧跡や海・山・川など豊かな自然に恵まれた大紀町。

当協議会では、その地域資源を活用した自然体験を始め、農林漁業体験、体験民宿での人々との交流など、さまざまな体験プログラムをコーディネート致します。

☎ 度会郡大紀町崎 2154-1
TEL0598-74-2277



伊勢志摩エリア

【鳥羽市】 島の旅社推進協議会

豊かな自然と島の人たちが長い年月をかけ培ってきた風土は島の大切な資源です。鳥羽湾に浮かぶ有人離島・答志島では、島に暮らす“かあちゃん”たちが島の魅力をおすそわけし、体験していただきたいという思いでオリジナルツアーをプロデュースしています。鳥羽の離島で過ごす、ゆったりとした島時間。漁村の生活を体験しに来てください。

〈おすすめ体験メニュー〉

【路地裏つまみ食い体験】路地裏は島の魅力がいっぱい詰まった宝の小道。かあちゃんたちのガイドで島の宝物を散策するプログラム。

【海女小屋体験】圓炉裏を囲んで海の幸を味わう海女小屋体験。

【浮島水族館】無人島の浮島へ出発！干潮時刻になると現れる磯場で、そこに住むカニやウニ、サカナたちとのふれあいから、ありのままの自然を体験できるプログラム。

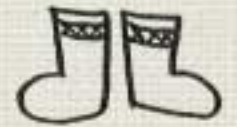
☎ 鳥羽市答志町 943 TEL 0599-37-3339



【南伊勢町】 農家民宿 「てんぶな」

築150年ほどの古民家を改修し農家民宿をしています。海・山のそばなので田舎の暮らしを幅広く体験いただけます。訪れた皆様が思うように古民家で「てんぶな」時間をお過ごしください。「てんぶな」とは…「素晴らしい」「立派」

☎ 度会郡南伊勢町船越 1892
TEL 090-7307-3171



東紀州エリア

【紀北町】 きほくふるさと体験塾

海・山・川の自然豊かな紀北町を五感で楽しめる体験プログラムをご用意しています。四季折々の紀北町を体感してください。お待ちしております。

☎ 北牟婁郡紀北町
東長島 2410-73
TEL 0597-46-3555 (紀北町観光協会)
<http://www.kihoku-kanko.com/taiken/>



【尾鷲市】 三木浦ゲストハウス

〈おすすめ体験メニュー〉
・暮らし体験(椿油の搾取、竜の飯炊き、蒔き割り、魚の三枚おろし)
・文化体験(焼村を訪ねる)
・歩く(三木崎ウォーク)

☎ 尾鷲市三木浦町 509-44
TEL 080-9119-3765



【熊野市】 熊野市お試し住宅

短期から長期にわたって熊野市民生活をおためしで体験できます。入居前に移住相談を行っています。

対象：熊野市への移住をお考えの方
期間：2日～6か月

☎ 熊野市井戸町 796
TEL 0597-89-4111
(熊野市役所)



【紀宝町】 農家民宿「るん家」

田植え・稲刈り等の体験(シーズン限定)や、地域の観光案内を行っています。

☎ 南牟婁郡紀宝町神内 153-16
TEL 090-5668-8070
<http://runshome.crayonsite.info/>



【紀宝町】 熊野川体感塾

川の参詣道として世界遺産登録されている熊野川。雄大な熊野川の流れを、三反帆によるツアーで体感していただくことができます。

☎ 南牟婁郡紀宝町北檜杖 203
TEL 0735-21-0314



【紀宝町】 農家民宿「はなあそび」

田植え・稲刈り・梅採りや梅酒作り等を体験できます。(シーズン限定)

☎ 南牟婁郡紀宝町神内 1952-5
TEL 090-4765-1347
<http://morinokumasann.cocolog-nifty.com/hanaasobi/>



移住 Q&A



Q1 田舎暮らしをしたいがどんなことから準備をしたらいいですか？

A1 自分がどんな生活をしたいかのライフプランを立ててみてください。そして、田舎とのかかわりを持つように、体験イベントや田舎で行なわれる行事に参加してみてください。そこで田舎や地域の人たちと触れ合うことによって、自分のライフプランと地域が合うのか見てください。

また、一緒に田舎暮らしをするパートナーとしっかりと意識を共有させてください。そして、譲れる所と譲れない所を整理したうえで決めてください。



Q2 地域にとけ込むにはどうしたらいいですか？

A2 郷に入ったら郷に従いましょう。地域はそれぞれに、風習やしきたり、伝統文化があり、それが田舎の魅力となっています。

そうしたものを尊重し、地域の行事には積極的に参加すれば、地域との絆は深まっていきます。



Q3 田舎は物価が安いと聞きますが？

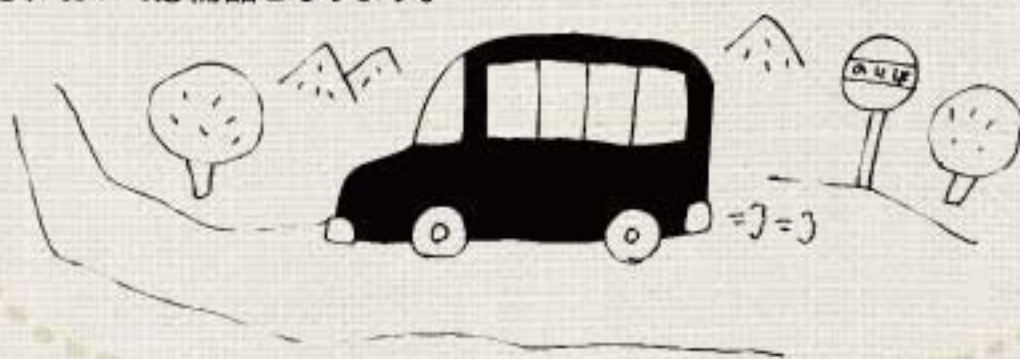
A3 価格競争の激しい都会と比べて日用品などは田舎のほうが高いかもしれません。しかし、近所の人と仲良くなることによって、野菜などを貰ったり、住居費が都会と比べて格段と安価で済みます。

また、何をしてもお金がかかる都会と違い、無駄な出費がなくなります。



Q4 田舎は不便ですか？
マイカーは必要ですか？

A4 不便です。都会のように公共交通機関が充実しているわけではありません。公共交通機関はありますが、本数が少ないので自分の都合のよい時間にあるとは限りません。マイカーは田舎暮らしにおいて必需品となります。



Q6 地域での共同作業などが多いと聞きますが
どんなことがありますか？

A6 都会と違い、共同作業で行なう道路や河川の草刈り・清掃作業や、集会所の草刈り・清掃作業・補修作業など、都会では行政任せの作業が地域では自治会での共同作業として営まれています。



Q5 ご近所づき合いはどうすればいいですか？

また田舎ではプライバシーが無いと聞いたのですが？

A5 田舎では周りの人が移住者の生活状況を観察しています。田舎の人は地域で助け合って暮らしてきたので、移住者だけではなく、常に周りの人々の状況を気にかけています。

また、都会からやってきた人々がどのように暮らしているのかは非常に興味があります。こうした状況をうまく活用して地域の人々に溶け込めば、楽しい田舎暮らしができます。



Q7 働く場所がありますか？

A7 働く場所をご紹介することは出来ません。近くのハローワークで事前または移住してから見つけていただく必要があります。

就職先は紹介できませんが、三重県内の色々な所で農業や漁業の担い手を募集している所があります。農業や漁業に興味がある方については、公益財団法人三重県農林水産支援センターまでお問い合わせください。



Q8 どうやって仕事を探せばいいですか？

A8 田舎に仕事があるかどうか考えると不安です。しかし、人が生活しているのですから仕事はあります。農業、林業、漁業といった第一次産業では担い手が不足しており、募集している地域は多くあります。

次に地元の企業に勤めるとい方法もあります。ハローワークで探したり、ふるさと就職相談会に参加したりするのもよいかもしれません。



Q9 インターネットに接続できますか？

A9 三重県内の全ての市町にはケーブルテレビネットワークが張り巡らされており、ケーブルテレビ会社の提供するインターネットサービスを利用することが出来ます。



Q10 住宅をどのように探せばよいのですか？

A10 不動産屋で探せば物件が多くあると思いますが、市町によっては移住者のために空き家を紹介する空き家バンク制度があります。詳しくは、「暮らす」のページをご覧ください。



Q11 畑はどのように探せばよいのですか？

A11 遊休農地は多くあります。特に高齢化の激しい地域においては、荒れている農地はもちろん、高齢者が営んでいる農地が多くあります。

農地を借りることについては、法律上の制約はありません。ただし、地域の方々が移住してくる前に、知らない人に農地を貸してくれるわけではありません。

田舎に住んで、地域の人々と接触する中で、農地を貸してくれる人を探してみましょう。

先輩移住者に聞くと、多くの方が農地を借りて、農業を楽しんでいます。



ACCESS



鉄道利用のアクセス

東京 ええとこやんか三重 移住相談センター を開設しました!

Facebookあります
<https://www.facebook.com/ijyu.pref.mie>

あなたの「三重暮らし」実現のため、
 私たちがお手伝いいたします。
 お気軽にご相談ください。

ええとこやんか三重 移住相談センター
 東京交通会館8F ふるさと回帰支援センター内
 東京都千代田区有楽町2-10-1

移住相談アドバイザー / 清水 ふき・河南 佑磨
 就業相談アドバイザー / 坂 年規
 開館時間 / 火～日 10:00-18:00 定休日 / 月・祝日
 TEL / 080-9512-5093
 e-mail / mie@furusatokaiki.net

三重県 地域支援課(三重県庁)
 中根 真由美・倉口 弘明・西尾 桂
 TEL / 059-224-2420
 e-mail / chiiki@pref.mie.jp

三重県移住・交流ポータルサイト
[ええとこやんか三重 検索](#)

